

○議長 五十四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外二番 黒田 本案ニ關シ未タ逐條ノ説明ヲ爲ササリシヲ以テ今之

ヲ略陳セン第一條第一項ノ犯罪ハ三月以上三年以下ノ重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處スル例ナルモ佛國ノ罰則ハ其第十條ニ掲ケテ罰金三百「フラン」以上一千「フラン」以下禁錮三月以上五年以下ト爲セリ之ヲ我カ通貨ニ換算シテ五「フラン」ヲ一圓ト定ムレハ即チ六十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ當リ本案ニ比スレハ其罰例甚タ苛重ナリ内閣ニ於テモ佛國ノ罰例ニ依ル可シトスル説出タリシニ其苛重ナルカ故ニ終ニ我カ刑法ニ從フ可キニ決シ未遂犯ノ一事モ亦之ヲ掲クル必要ヲ見スト云フニ決セリ各國ノ罰則モ亦未タ成ラス唯其本年四月中ニ完備ス可シトノ報知ヲ得タルノミ佛國ハ此

條約ヲ締結セシ本國ナルヲ以テ先ツ罰則ヲ設ケ未遂犯ノ處分ヲ掲ケリ我國ノ如キ陸地上ノ電信線ノ未遂犯ハ往往ニ捕拿ス可キモ海洋中ノ電信線ハ假令ヒ故意ノ犯者ニシテ其未遂ノ場合タルモ之ヲ收捕スルハ容易ノ業ニ非ス是ヲ以テ之ヲ措キシナリ然レトモ若シ交際上ニ要用ナリトシテ其處分法ヲ掲ケントナラハ本員ハ必シモ抗論セサル可キノミ但シ刑法第七十條ハ其冒頭ニ「此節ニ云々」ト言ヒ以テ廣ク橋梁道路河港電信鐵道其他ニ及ホシ敢テ電信線ノミニ止マラス他ノ行政規則ニ於テモ未遂犯ヲ問フトキハ總テ刑法未遂犯ノ例ニ依ルト言ヘリ然レハ則チ五十四番ノ修正ハ或ハ左右支障スル無キヲ保セサルナリ

○村田 刑法第七十條ノ「此節」ナル語辭ハ許多ノ犯罪ヲ

包含スルハ固ヨリ論ヲ俟タサレトモ上ニ第百六十四條ト言ヒ直下ニ第百七十條ト條名ヲ掲クルトキハ他條ニ涉ラサルハ自ラ明白ナリ然レトモ若シ他條ニ涉ルノ嫌ヒ有リト爲サハ修正文ヲ改メテ第百七十條ノ例ニ照シテ處斷スト爲スモ亦可ナラン是レ蓋シ輕罪ノ未遂犯ナレハナリ

○議長 五十四番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ五十四番ノ修正說ハ消滅ス乃チ本條ヲ可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 疎虞懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ其船舶

ノ初テ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)ニ二十四時以内ニ届出ヘシ之ヲ届ケサル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○十八番 柴原和 只今書記官ハ之ヲ届出サル者ト朗讀セリ本官ノ手中ニ在ル文案ニハ之ヲ届ケサル者ト爲セリ孰レカ眞ナルヤ

○議長 本席ノ聽取スル所ヲ以テスレハ書記官ハ之ヲ届ケサル者ト朗讀セリ

○十八番 柴原和 然ラハ本官ノ誤聞ニ坐ス此誤聞ヨリシテ偶然ニ修正ノ意見ヲ惹起セリ即チ之ヲ届出サル者ト修正セン

○十四番 大鳥圭介 賛成

○議長 十八番ノ修正說ヲ問題ト爲ス

○三番箕作 麟祥 賛成セント欲スレトモ十八番ハ第三條ニ在ル者モ亦之ヲ届出サルト修改スルヤ

○十八番柴原 和 現修正ハ偶然ニ提出シタル者ニシテ未タ他條ニ及フ

ニ違アラサリシ若シ他條ニモ之レ有ラハ同一ニ歸セシメント欲ス

○議長 十八番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ十八番ノ修正說ニ決ス其他條ニ在ルモ亦本條ノ例ニ依リ之ヲ改ム

書記官森山 茂 朗讀

第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムヲ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ據テ届出ヘシ之ヲ届ケサル出

者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 發議無キヲ以テ可定ト認メ次條ニ移ル

書記官森山 茂 朗讀

第四條 條約第五條第六條ヲ犯シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ

○五十四番村田 保 本條ニ關シ前會ニモ内閣委員ノ説明ヲ煩ハセリ抑

モ條約第五條第四項ハ電信船ニ禁令スルニ漁船ノ運轉ニ妨害ヲ加フ可ラサルヲ以テス然レハ則チ此禁令ニ背ケ八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス可シ然ルヲ内閣委員ハ實際上決シテ其事無キヲ以テ

裁制力ヲ要セスト云フモ其妨害ヲ加フル無シトハ斷言ス可ラス事實或ハ之レ有ラン果シテ之レ有ラハ罰ニ處スルヤ將タ罰ニ處セサルヤ

○番二番黒田綱彦

熱心ノ質疑ナレトモ是レ本案ノ必要視セサル所ナリ抑モ本條ハ信號ヲ認メハ退避ス可シト命令スルニ在リ又條約第五條第四項ハ二十四時間ノ猶豫ヲ存シ此時間ハ敢テ退去ヲ要セス若シ此時間ヲ經過スルモ猶ホ退避セサル時ハ其漁具等ヲ毀損セララルモ是レ自業自得ナレハ將タ誰ヲカ咎メンヤ且夫レ信號船ハ此時間ハ運轉ヲ停止スルヲ以テ決シテ漁船ヲ妨害セサルナリ故ニ單特ニ第五條第六條ト連揭ス

○五十四番村田保

質問ト答辨ト其旨趣ヲ異ニスルニ似タリ抑モ妨害

ヲ與ヘスト做サハ初ヨリ其明文ヲ掲クルヲ要セス既ニ此明文ヲ掲クル以上ハ何ソ其事實無シト云フヲ得ン被害ノ漁人ヨリ證左ヲ具シテ起訴スルトキハ政府ハ何ノ法ヲ以テ之ヲ處セントスル耶佛國ノ罰則ニハ此事ヲ掲ケスシテ乘組官吏ト漁人ト各其罰例ヲ異ニセリ是レ曖昧ヲ避ルニ由ルナラン又條約第五條ノ末項ニ電信船ハ成ルヘク速ニ其工事ヲ終ルヘシト言ヘリ此工事モ若シ漁人ヨリ速ニ工事ヲ終ラサル爲メニ損害ヲ被レリト起訴スルトキハ如何カ之ヲ處スル耶

○番二番黒田綱彦

内閣ハ電信船ノ妄ニ漁船ヲ妨害スル無キヲ信シテ本案ヲ起草セリ又其速ニ工事ヲ終ラサルヲ起訴セハ如何ト云フハ是レ無ヲ以テ有ト爲ス過甚ナル詰問ト謂フ可シ看ヨ條約第五條第五

項ハ成ルヘク速ニト言ヘルニ非スヤ此ノ如キ乖理ノ質問ハ本員
敢テ答辨ノ責ニ任セスシテ可ナラン五十四番ハ強テ第四項ノ事實
無キヲ保セスト云フモ果シテ其説ノ如ク電信船ノ妄ニ漁人ヲ妨害
スル有ラハ本員一己ノ思想ヲ以テスレハ是レ之ヲ罰スルニ何ノ嫌
ヒ有ラン又五十四番ハ佛國ノ罰則ニハ之レ無シト云ヘリ彼ハ彼タ
リ我ハ我タリ將タ焉ソ一ニ佛國ニ之レ倣フヲ要センヤ

○五十四番保村田 本官ハ要スルニ蚩蚩タル斯民ノ或ハ前陳ノ如キ口
實ヲ籍リテ起訴スル有ル可キヲ憂フルナリ内閣委員ハ電信船ハ決
シテ漁船ヲ妨害セスト明言シタルヲ以テ之ヲ質セシニ今又若シ妨
害セハ之ヲ罰センノミト明言ス何ソ前後ノ言相反スルヤ

○番二番 黒田 網彦 電信船ノ故意ニ漁船ヲ妨害スルハ政府ノ視テ必無ト

做ス所ナレトモ五十四番ハ然ラスト云フニ因リ本員ハ一己ノ思想
ヲ以テ若シ必無ト做サスンハ之ヲ罰スルモ亦可ナリト云ヒシノミ
敢テ前後ノ答辨其意ヲ異ニスルニ非ス

○議長 他ニ發議無キヲ以テ本條ハ可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要スルトキ之ヲ示スコト
ヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第三百二十九
條ニ照シテ處斷ス

○議長 本條ハ可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繫港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判スヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ第二讀會ヲ終ル

○十八番 柴原和 本案モ直ニ第三讀會ヲ開ク前議案ノ如クナルヲ望ム

内閣委員モ急施ヲ要スト云ヒ各位モ亦議論ヲ蓄フルニ非ス唯第一條ニ第七十條ノ五字ヲ挿入ス可シト云フノ修正説出タルノミ本官ノ如キハ一字ノ修正ヲモ要セスト信ス故ニ建議スルコト爾リ

○三番 箕作麟祥 本官ハ特別ノ意見ヲ持セサレトモ五十四番ハ種々ノ質

間發議ヲ爲セリ思フニ原案モ然カク不可ナルニハ非サレトモ既ニ

佛國罰則ノ在ル有レハ務メテ同一例ニ出テシメンコトヲ欲ス内閣委員ハ故意ニ漁船ヲ妨害スル電信船ハ其船長官吏ヲ罰スルモ可ナリト云ヘリ其レ然リ法律ニ違背セハ素ヨリ之ヲ罰センノミ要スルニ佛國罰則ヲ參考スル爲メ定規ノ日數ヲ隔テテ第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム

○十八番 柴原和 前會ニ調査委員ヲ置ントスル建議モ消滅シ爾來許多

ノ日子ヲ經タレハ各位ノ既ニ熟考セリト信シ前陳ノ建議ヲ爲セシモ元來本官ハ輕卒事ニ從フヲ好マサルヲ以テ乃チ前述ノ建議ヲ收銷ス

○外二番 黒田綱彦 本官ハ十八番ノ建議ヲ喜ヒシニ今ヤ之ヲ收銷スルヲ

憾ム思フニ佛國罰則ヲ參照スルハ甚タ可ナレトモ箇ハ是レ參考ノ

爲メニ寄送セルニ過キス而シテ其必要ハ條約書第十二條ノ明文ニ據リ條約書第二條第五條第六條ノ犯人ヲ處罰スルニ必要ナル罰則ヲ制定セルニ在ルノミ其他ハ各國政府ノ適宜ニ定ムル所ニ任ス佛國罰則ハ總計二十條ニシテ其第一條ハ我第六條ト同ク管轄裁判所ヲ定メ其第二條ハ犯罪ノ起訴ヲ示ス是レ我ハ治罪法ニシテ既ニ足ルヲ以テ復タ贅セス其第三條ハ官吏ニ成ル調書ハ偽造ノ起訴ヲ見ルマテハ之ヲ確實ト做スヲ示シ其第四條ハ暴行脅迫ノ場合ニシテ我第五條ニ當ル其第五條ハ我第四條第二項ニ當リ其第六條第七條第八條ハ我第四條ニ包括ス唯佛國罰則ニ之レ有リテ本案ニ之レ無キハ其第十八條ノ雇人等ノ犯セル所爲ヲ雇主ノ責任ニ歸セシムル者ノミ是レ我ニ在テハ不要ナリトス又其第九條ノ海底電線ノ切斷

機械ヲ製造販賣スルコトモ亦我ニ不要ナリトス其第十條ノ未遂犯ノ處分ハ已ニ五十四番ニ對スル答議ニ盡セリ又其第十條第三項ニ監視刑ノコトヲ云フモ我ハ刑法第百六十條乃至第百七十條ニ此附加刑ヲ用ヒサルヲ以テ之ヲ掲ケス其第十八條第四項ハ我刑法第七十五條ニ該レトモ我ハ刑法ノ總則ニ據ル又其第十條ハ内外領地ト内外船舶トノ區別ヲ言フモ我ニハ治外法權ヲ行フヲ以テ素ヨリ不要ナリトス其第十一條ハ審判ノ場所ヲ示シ其第十三條ハ調書ノ効力ヲ定メ其第十四條ハ調書ノ起草人ヲ掲ケ其第十九條ハ數罪俱發ノ例ヲ言ヒ其第二十條ハ減免ノ例ヲ舉ケリ是等ハ我ハ之ヲ刑法ト治罪法トニ讓レリ要スルニ條約ニ據レハ其第二條第五條第六條ヲ犯ス者ノ罰ヲ具フレハ足ルナリ因テ言フ本案ハ種種ノ事由ニ妨ケ

ラレ遅延今日ニ至リ佛國ヨリハ各國ノ罰則共ニ四月中ニ成ルヲ通知ス唯其未タ成ラサルハ伯西爾等ノ二三ノ未開國ニ過キスト聞ク我國モ早ク之ヲ規定セスシテ未開國ト相ヒ伍スルハ深ク憾ム可キニ非スヤ願クハ速ニ議定センコトヲ

○九番 三浦安

内閣委員ニ一問ス本案ヲ制定スル以上ハ其施行ハ素ヨリ内國ニ止マルモ之ヲ洋文ニ翻譯シテ條約各國ニ通示スル無キヤ若シ之ヲ各國ニ通示スト爲サハ本案ニ闕ケル罰例ハ我カ刑法治罪法ニ讓リテ之ヲ省略スト云フモ各外國人ヨリ之ヲ觀レハ恐クハ不完全ノ看ヲ爲ス有ラン

○番二番 黒田綱彦

各國彼此ノ罰則ハ條約第十三條ニ照シテ相互ニ之ヲ報告スル者トス故ニ罰則ニ明文無キハ公簡ヲ具シテ刑法總則ニ據

リ處分スルノ意ヲ通示セントス

○十八番 柴原和

議長ハ三番ノ說ヲ採用スルヤ將タ決ヲ議場ノ多數ニ取ルヤヲ知ラサレトモ若シ三番ノ說或ハ議場ノ多數ニ制セララルニ會ハハ甚々遺憾ナルヲ以テ願クハ議長ノ職權ニ據リ定規ノ日數ヲ經テ第三讀會ヲ開カンコトヲ

○三十五番 細川潤次郎

本官モ定規ノ日數ヲ經テ第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム五十四番ノ提出ニ係ル未遂犯ノ處分ヲ増補スル意見ハ本官之ヲ賛成セシニ不幸ニ消滅セリ即チ第四條ノ如キモ條約第五條ノ第四項第五項ハ此限ニ在ラスト云フ等ノ明文ヲ掲ケス單ニ原案ノ如クセハ其第四項五項ヲ犯ス者ハ之ヲ不問ニ置クト云フヲ得サラシ内閣委員ハ内閣ノ旨意ハ之ヲ犯スモ罰セスト云ヒ而シテ其一己

ノ意見ヲ述レハ之ヲ犯セハ罰スルモ可ナリト云フ内閣ノ代理者タル委員ニシテ前後其説ヲ異ニスルハ何ソヤ二者必ス其一ニ居ラサル可ラス抑モ内閣委員ノ答辨ニ苦ムハ其起草ノ不完全ナルニ因由ス五十四番ハ熱心以テ質問スルモ未タ修正ヲ加フルニ及ハス要スルニ第四條ノ如キハ内閣ノ旨意ヲ酌ミテ修正ヲ加ヘント欲スレトモ未タ好字面ヲ得ス且九番ノ質問スル如ク條約各國ニ報告スル法案ナレハ恰モ萬國博覽會ニ出品スルト同ク精密ニ調査セサル可ラス内閣委員ハ出品ノ遅延ヲ恨ムト辨スレトモ本官ハ粗品ヲ出シテ各國ノ嗤笑ヲ招カンヨリ寧ロ精品ヲ出シテ其好評ヲ得ンコトヲ望ム

○九番 三浦安

條約第十三條ニ據リ各國互ニ報告スト云ヘハ充分ニ調

査セサル可ラス治外法權ヲ排脫スルハ全國人民ノ企望シテ措サル所ナリ故ニ本案ハ決シテ博覽會ニ出品シテ名譽ヲ博スル如キ輕易ノ看ヲ爲ス可キニ非ス若シ調査ノ精密ナラスシテ疎漏ニ失ス有ラハ各國政府ノ嗤笑ヲ招キ條約改正ノ妨害ヲ致サントス因テ本官ハ前會以來疎略ニ本案ヲ看過セシモ今ヤ大ヒニ調査ヲ加フルノ必要ヲ感ス故ニ第三讀會以前ニ調査委員ヲ置ンコトヲ望ム蓋シ第三讀會ハ一回ノ發議ニ止マリ或ハ意見ヲ盡ササルヲ恐レハナリ乃チ之ヲ建議ス

○外 二番 黒田綱彦

本員ハ強テ第三讀會ヲ今日ニ開クヲ望マス本院ノ定規ニ從フモ可ナリ只一言セン本案第四條タル試ニ原文ヲ直譯シテ参考ニ供センニ條約第五條第四項ニ曰ク然レトモ漁船其レハ上ニ

述タル信號ヲ掲ケタル一ノ電信船ヲ認メ又ハ認メ得ヘキ地位ニ在
ル漁船ハ其信號ニ從フ爲メ多クモ二十四時其レハ如何ナル妨害モ
其運轉ニ加ヘラレヌ所ノ二十四時ノ猶豫ヲ持ツヘシト言ヘリ然レ
ハ則チ本案第四條ニ單ニ第五條ト掲クルモ不可ナル無キナリ故ニ
本員ハ事實此場合無キヲ證セシニ五十四番ハ若シ之ヲ犯ス有ラヌ
如何スルト詰問セルヲ以テ果シテ五十四番ノ云フ如キ有ラハ之ヲ
罰センノミト答ヘシナリ某議官ハ本員ニ對シテ二者ノ其一ニ居レ
ト諭セルモ本員ハ決シテ前後其說ヲ異ニスル無キナリ

○二十九番大給恒 九番ノ說ハ甚タ善シ五十四番ノ疑點モ亦一理アリ
本案第四條ハ實ニ不完全ナルヲ覺フ而シテ第三讀會ハ一回ノ發言
ニ過キササルヲ以テ意見ヲ盡ス能ハス且外國ニ公示スル法案ナレハ

佛國罰則ニ比照シテ精密ニ調査センコトヲ望ム

○議長 九番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者 二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ九番ノ建議ニ決シ乃チ三番箕作八番西九番
三浦大鳥十番圭介五十四番村田ヲ以テ調査委員ト爲ス其報告ヲ待テ第
三讀會ヲ開カン散會セヨ

午前第十一時四十分閉場

元老院會議筆記 明治十八年六月二十九日

○第四百七十五號議案 海底電信線保護萬國聯合條約罰則ノ儀 第三讀會

議長 東久世 通禧

出席議員

- | | |
|----|-------|
| 二番 | 小畑 美稻 |
| 三番 | 箕作 麟祥 |
| 五番 | 青山 貞 |
| 六番 | 津田 出 |
| 八番 | 西 周 |
| 九番 | 三浦 安 |
| 十番 | 福原 實 |

| | |
|------|--------|
| 十一番 | 長松 幹 |
| 十二番 | 鷺尾 隆聚 |
| 十四番 | 大鳥 圭介 |
| 十五番 | 長岡 護美 |
| 十六番 | 伊丹 重賢 |
| 十七番 | 林 友幸 |
| 十九番 | 籠手田 安定 |
| 二十番 | 海江田 信義 |
| 二十五番 | 何 禮之 |
| 二十六番 | 鍋島 幹 |
| 二十七番 | 壬生 基修 |

| | |
|------|--------|
| 二十八番 | 神山 郡廉 |
| 三十番 | 安藤 則命 |
| 三十一番 | 上杉 茂憲 |
| 三十二番 | 宮本 小一 |
| 三十五番 | 細川 潤次郎 |
| 三十六番 | 榎村 正直 |
| 三十七番 | 神田 孝平 |
| 三十八番 | 岩村 定高 |
| 三十九番 | 大久保 一翁 |
| 四十番 | 渡邊 清 |
| 四十三番 | 伊集院 兼寛 |

四十五番 河田 景與

四十六番 田邊 太一

四十九番 井田 讓

五十四番 村田 保

五十七番 永山 盛輝

內閣委員 番外一番 參事院議官 高崎 五六

同 番外二番 參事院議官補 黑田 綱彦

午前第九時三十分開場

○議長 第四百七十五號議案ノ第三讀會ヲ開ク

○三番 箕作麟祥 本案ハ第二讀會ノ終ルニ際シ某議官ノ建議ニ因テ全部

付託調査委員ヲ置クニ決シ本官等其選ニ當ルヲ以テ反覆審議シ遂

ニ修正ヲ加ヘテ報告スルニ至レリ故ニ原案ト報告修正案ト孰レヲ
議題ニ付ス可キヤヲ決スルニ先タチ簡單ニ修正ノ理由ヲ陳述セン
本案ハ其主本タル海底電信線保護萬國聯合條約ニ適應シ隨テ同盟
各國ノ罰則ニ照準セサル可ラサルハ論ヲ待タス然ルニ佛國ノ罰則
ハ既ニ本邦ニ回致セルモ他ノ同盟各國ノ罰則ハ未タ其回致ヲ得ス
因テ佛國ノ罰則ト比照シタルニ少シク處罰ノ輕重ヲ異ニセル有ル
モ其ノ調査ノ周密ナルヲ知ルヲ得テ稍ヤ心ヲ安ンセリ但第一讀會
ニ五十四番ノ説ケル如ク佛國ノ罰則ニ比スルモ本邦ノ刑法ニ照ス
モ少シク權衡ヲ失スル有ルカ如キハ即チ報告案ノ第一條ニ加ヘタ
ル未遂犯罪ノ事件ニシテ是レ佛國ノ罰則ニモ明掲セルナレハ本邦
ノ罰則ニモ之ヲ明掲スルヲ要ス此點ニ關シ五十四番ハ第二讀會ニ

刑法第七十條ヲ引ケル修正説ヲ提出セシモ調査委員ハ其條則タル特リ電信線ニ係ルノミニ止ラス汽車船舶等ニ係ル事件ヲモ包括セルヲ以テ本案ニハ條名ヲ掲ケス「處斷ス」ノ「ス」ヲシニ改メ其未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷スト明掲スルヲ可トセリ第三條ノ「前條ニ據テ」ノ「據」ノ字ヲ依ノ字ニ改メシハ刑法及ヒ其他ノ法律規則ノ字例ニ從フ第四條ハ原案ノ如クセハ條約第五條ノ第一項乃至第五項ヲ指スニ似タルモ其實ハ第四項第五項ハ罰ニ間ハサルニ在レハ「第五條」ノ下ニ第一項第二項第三項及ノ十字ヲ挿入シ其處罰スル者ト處罰セサル者トノ界域ヲ明白ナラシム條約第五條ノ原文タル第二讀會ニ番外二番ノ辨明セシ如ク二十四時以内云云ハ本文ニシテ漁船云云ハ其註文ナレトモ我カ國文ニ翻譯ス

レハ第四百七十四號議案第五條ノ如クナル可シ是レ彼我文法ノ異なるノ致ス所ニシテ此疑惑ヲ避ル爲メニハ報告修正案ノ如ク第五條第一項第二項第三項ト爲スノ明備ナルニ如カス斯ノ如クセハ字句上ニ於テハ少シク殊異ナルモ意義ハ善ク佛國ノ原文ト吻合スルヲ得ン同條中ノ「十圓以上」ヲ「五圓以上」ト爲セシハ前會ニハ議論ヲ聞カサリシモ電信條例第六十一條ニ「水底電信線ノ妨害ヲ爲ス者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス」ト言ヘル明文ノ存スレハ本案ニ最少限ヲ十圓ト爲スハ權衡ヲ失スルニ似タリ又佛國ノ罰則ニハ十六フランク以上三百フランク以下即チ本邦ノ三圓以上六十圓以下ニ當ル罰金ニ處シ或ハ禁錮ヲ附加スル有ル可キノ意ヲ掲クレハ本邦ニ於テモ五圓ヲ最少限ト爲スヲ可トス斯ノ如クセハ電信條例ト

比準シ佛國ノ罰則トモ權衡ヲ同ウスルヲ得ン第五條ノ「要スル」ヲ「要求スル」ト爲セシハ其引用セル條約第十條ノ用字例ニ依ル且「要スル」ト言ヘハ或ハ要求スルト云フ意義ノ外ナル意義ニモ解釋スルヲ得レハナリ第六條ノ「ヘシ」ヲ削去セシハ他條ノ結文ニ倣ヒ文義ヲ明瞭ナラシムルニ過キス是レ本案修正ノ理由ナリ斯ノ如クセハ佛國ノ原文ト對照スルモ毫モ缺點ヲ見サル可シ各位ノ幸ニ之ヲ諒シテ報告案ヲ取り以テ速カニ議定センコトヲ望ム

出席

三十四番 楠本 正隆

同

五十一番 津田 眞道

同

五十二番 野村 素介

○議長 原案ト修正案ト孰レカ本案ト爲ス可キヤヲ決セン調査委員

ノ報告セル修正案ヲ以テ本案ト爲スニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ報告修正案ヲ議題ト爲ス

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ追テ布告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○九番 三浦 安 本案ヲ修正セシ理由ハ三番ノ陳述セル所ノ如シ抑モ本

案ヲ調査委員ニ付託スルヲ建議セシハ本案ノ普通ノ法律規則ト異ニシテ同盟各國ニ通示スル者ナルニ由レリ前會ニ五十四番ハ内閣

委員ニ對シテ質問セシニ番外二番ハ一己ノ思想ヲ以テ答辨セリ本官ノ本院ニ奉職セシ以來議場ノ論辨ノ激昂セシコトハ往往ニ實歴シタル所ナルモ未タ曾テ内閣委員カ一己ノ思想ヲ以テ議官ノ質問ニ答ヘタル前例ヲ見聞セス斯ノ如キハ畢竟番外二番カ答辨ニ苦ムニ出タル可キヲ以テ本官ハ深ク虞懼ノ感觸ヲ生シ調査委員ヲ置ンコトヲ建議シタルニ幸ニ各官ノ同意ヲ得テ之ヲ置クニ決セリ然リ而シテ三番等カ原文ト齟齬セシメサル爲メニ反覆審議シテ修正ヲ加ヘ以テ完全ノ法案ト爲シ本官等ヲシテ心意ヲ安ニスルヲ得セシメタリ抑モ今日ニ在テハ治外法權ノ妨碍ヲ存スレトモ早晚之ヲ打破スルノ期ニ至ラハ外國人ヲモ我カ法律ノ下ニ立タシムルヲ得ヘシ本案ノ如キ假令治外法權ヲ打破セル後ト雖モ我カ國民ノミニ施

行スルニ止マレハ細事ハ刑法及ヒ電信條例ニ譲リテ足ラン是レ調査委員モ原案ニ從ヒ一一ニ細事ヲ明掲セサリシ所以ナリ聊カ本官ノ全部付託調査委員ヲ置ク建議ヲ爲シタル理由ヲ陳明ス

○議長 布告案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第一條 條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第百六十四條ノ例ニ照シテ處斷スシ其未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

其疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處斷

○三十五番細川潤次郎

此修正ハ最モ其當ヲ得タル者ト信ス第二讀會ニ於テ五十四番ノ發議ヲ賛成シタルニ不幸ニ行ハレサリシモ今此修正ヲ得テ始メテ完備セルヲ見ル況シテ佛國ノ罰則ニモ未遂犯罪ノ處分ヲ明掲セルヲヤ起立ノ便次ニ併セテ陳述セン第三條ノ「據」ヲ依ト爲セシハ刑法等ニ用例ヲ見ルノミナラス本案第五條ニ「條約第十條ニ依リ」ト言ヘルヲ以テ必ス修正ノ如クセサル可ラス第四條ニ條約第五條ノ各項ヲ明示セシハ本官カ修正セント欲セシト同一ノ行文ニシテ最モ明備ナルヲ覺フ「十圓」ヲ「五圓」ト改メシモ權衡其宜キヲ得タリ第五條ノ「要スル」ヲ「要求スル」ト改メシハ條約第十條ノ字例ト同一ニ出ツ且原案ノ如クンハ欲スト云フ如キ解釋ヲ下

スノ嫌ヒ有リ是亦修正ヲ妥當ナリトス此他報告修正案ハ一點ノ微瑕ヲモ留ムル無シト信スルヲ以テ取決ニ際セハ每條ニ起立シテ以テ同意ヲ表セント欲スルナリ

○十六番伊丹重賢

第二讀會ニハ宿痾ノ爲メニ闕席セシヲ以テ議場ノ景

況ヲ知ルニ由シ無シト雖モ第一讀會ニ三番ハ譯文ノ誤謬ヲ指摘セシカ過日內閣ヨリ正誤文ヲ通牒シ悉ク三番ノ第一讀會ニ陳辨セシ如クナリシハ満足ナリトス又五十四番ノ發議セシ未遂犯罪ノ處分ニ關シテハ佛國罰則ノ如何ヲ疑ヒシニ本日三番ハ佛國ノ罰則ニ之ヲ明掲セルヲ陳辨セルヲ以テ本官ハ心ヲ安ンシテ本修正ヲ是認ス起立ノ便次ニ聊カ調査委員若クハ內閣委員ニ質問セン第二條第三條等ニ散見セル「損壞」ノ文字ハ條約第二條第四條等ニハ「破損」ノ文

字ヲ用ヒタリ元來罰則ハ條約ニ適應ス可キナレハ用字例ノ如キモ
同一ナルヲ要スレトモ未タ損壞ト破損トハ意義ニ差異ヲ存スルヤ
否ヤヲ知ラス敢テ説明ヲ煩ハス

○十四番 大鳥圭介

十六番ヨリ損壞ト破損トノ文字ニ關スル質問ヲ受ケ
タルモ此用字例ハ調査委員會ニ於テモ細議セサリシ故ニ調査委員
ノ答辨セシヨリハ内閣委員ノ説明ヲ得ルヲ可トス本官ノ見ル所ヲ
以テセハ本案ノ如ク損壞ノ文字ヲ用ルヲ可ナリト信ス刑法第六
十四條ニ「電信ノ器械柱木ヲ損壞シ」ト言フ有レハ條約第二條第四
條等ニ破損ノ文字ヲ下セシハ偶然ノ誤填ナル可シ若シ早ク意ヲ此
ニ注クヲ得ハ條約第二條第四條等ニ修正ヲ加フ可カリシモ今ヤ奈
何トモスル能ハス請フ十六番ノ此意ヲ領センコトヲ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 疎虞懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ其船舶
ノ初テ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)
ニ二十四時以内ニ届出^出ヘシ之ヲ届ケサル者ハ十圓以上百圓以下
ノ罰金ニ處ス

○十六番 伊丹重賢

十四番ノ答辨ヲ得テ損壞ト破損トノ文字ニ關スル疑
義ハ消散セリ十四番モ云ヘル如ク條約書ト本案ト用字例ヲ異ニス
ルハ妥穩ナラサレトモ今ヤ條約書ニ修正ヲ加フルヲ得ス又條約書
ト用字例ヲ一ニスル爲メニ本案ヲ修正セハ刑法ノ用字例ト別異ヲ
生スルヲ以テ已ムヲ得ス本案ヲ賛成セン

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第二條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムヲ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ據テ届出ヘシ之ヲ届ケサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第一項第二項第三項及

五

第四條 條約第五條第六條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要スルトキ之ヲ示スコトヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第三百三十九條ニ照シテ處斷ス

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繋港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判スヘシ

○議長 可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ畢ル本會ヲ以テ確定決議會ト看

做スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本會ヲ確定決議會ト看做シ例ニ遵ヒ修正ノ理由ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午前第十時三十分閉場

元老院會議筆記

明治十八年六月十八日

禁傍聽

○第四百七十六號議案

地租徵收期限改正ノ儀 第一第二第三讀會

議長 東久世通禧

出席議員

- 二番 小畑 美稻
- 三番 箕作 麟祥
- 四番 田中 芳男
- 五番 青山 貞
- 六番 津田 出
- 八番 西 周
- 九番 三浦 安

| | |
|------|--------|
| 十番 | 福原 實 |
| 十一番 | 長松 幹 |
| 十四番 | 大鳥 圭介 |
| 十五番 | 長岡 護美 |
| 十六番 | 伊丹 重賢 |
| 十七番 | 林 友幸 |
| 十八番 | 柴原 和 |
| 十九番 | 籠手田 安定 |
| 二十三番 | 鍋島 直彬 |
| 二十四番 | 楫取 素彦 |
| 二十五番 | 何 禮之 |

| | |
|------|--------|
| 二十六番 | 鍋島 幹 |
| 二十七番 | 壬生 基修 |
| 二十八番 | 神山 郡廉 |
| 三十番 | 安藤 則命 |
| 三十一番 | 上杉 茂憲 |
| 三十二番 | 宮本 小一 |
| 三十四番 | 楠本 正隆 |
| 三十六番 | 榎村 正直 |
| 三十七番 | 神田 孝平 |
| 三十八番 | 岩村 定高 |
| 三十九番 | 大久保 一翁 |

四十一番 町田 久成

四十四番 由利 公正

四十五番 河田 景與

四十六番 田邊 太一

五十二番 野村 素介

五十四番 村田 保

五十五番 久我 通久

五十七番 永山 盛輝

内閣委員番外一番 參事院議官 島 惟精

同 番外二番 參事院議官補 小池 靖一

同 番外三番 參事院員外議官補 神鞭 知常

午前第九時三十分開場

○議長 第四百七十六號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官西山 眞平 朗讀

布告案

明治十四年二月第拾四號布告地租徵收期限第三期以下左ノ通改正ス

田方

三期該年 十一月一日ヨリ 二分五厘

同

四期同 十二月十六日ヨリ 二分五厘

同

五期同

一月二十六日ヨリ
三月三十一日限

二分五厘

六期同

四月一日ヨリ
四月二十日限

二分五厘

同

右奉 勅旨布告候事

○番二番小池
精一

地租徴收期限ハ明治十四年ヲ以テ現行法ノ如ク改定
シ十六年ニ至リ更ニ第四期ヲ改正シテ稍ヤ其一部分ヲ緩フセリ然
ルニ目今農民ハ益ス疲弊ニ陥リ實ニ地租ノ公納ヲ完フスルヲ得サ
ラントス因テ本案ノ如ク徴收期限ヲ延ヘテ六期ト爲シ田方五分ヲ
二分五厘ト爲サハ人民ニ在テハ其財計ニ餘裕ヲ生シ爲メニ大ニ困
窮ヲ醫スルヲ得ン此ノ如ク今日ニ必要ナル法案ナレハ速ニ議定上
奏センコトヲ望ム

出席

三十五番

細川潤次郎

○十八番

柴原和

本案ノ大體ヲ賛成ス近時ニ於ル農民ノ現状ヲ觀ルニ
地租徴收期限ハ尙ホ一期ヲ延ヘント欲スルモ政府財計ノ實況然ス
ル能ハスンハ亦已ムヲ得サルノミ元來地租ノ以テ人民ノ休戚ニ重
大ノ關係ヲ有スルハ論ヲ俟タス故ニ往古以還租稅ニ關シテハ政府
ノ常ニ最モ其心思ヲ勞セシヲ見ルナリ往古ノ制度ハ姑ク置キ舊幕
府以來本件ニ係ル沿革ノ大略ヲ述ヘンニ德川氏ノ租稅ヲ徴收スル
方法ハ恰モ一種ノ科學トシテ攻究セルカ如シ元龜天正ノ戰亂時代
ハ其何如ヲ知ラサレトモ德川氏ノ霸政ヲ執ルニ迨ヒ地租ノ徴收ハ
各地方其期ヲ異ニシ國土ノ氣候ニ應シテ遲速ヲ存セリ舊諸藩ノ如
キモ各其徴收ノ方法ヲ異ニシ大抵三公七民若クハ五公五民ヲ以テ

定度ト爲シ或ハ三公五民ト爲ス有リテ稍ヤ薄輕ナル看ヲ爲スモ所謂ル御用金ナル者ヲ課スルカ故ニ同ク是レ五公五民ノ比例ニ當レリ武ヲ以テ國家ノ基本ト爲セル當時ニ在テモ租法ニ心ヲ用ウル其レ此ノ如シ蓋シ地租ノ以テ人民ノ休戚ニ重大ノ關係ヲ有スルヤ知ル可キナリ且夫レ徳川氏ノ時代ニ於テハ地租ハ金納ト爲シ或ハ其半ハ米納ト爲シ又彼ノ檢見取等歳年ノ景況ニ隨テ種種ノ方法ヲ應用セリ其金納若クハ米納ヲ施行スルハ歳年ノ豊凶ヲ察シ人民ノ便宜ヲ謀ルニ出テサル無シ然ルニ若シ金納若クハ米納ノ一方ニ偏セハ爲メニ多少ノ患害ヲ致スヲ免レス即チ方今ノ如ク地租ハ一切ニ金納ト爲シ一定ノ地價ヲ標準トシテ之ヲ徵收スルヤ米價ノ非常ニ騰昂セル時ハ農民ノ財計ニ多少ノ餘裕ヲ生スルヲ以テ各其發賣ノ

量數ヲ減シ隨テ東京ノ如キ米穀ノ供給ヲ他ノ地方ニ仰ク土地ニ在テハ米穀缺乏シテ大ヒニ困難ヲ感スル有ラン之ニ反シテ米價ノ低落セル時ハ農民ハ收穫米ノ賣得金ヲ以テ租稅其他ノ費用ニ供スルニ足ラス爲メニ大ヒニ困苦ヲ感スル有ラン是ニ由テ之ヲ觀レハ國地ノ狀況ト歳年ノ豊凶トヲ察シテ以テ徵收ノ方法及ヒ期限ヲ殊異ニスルハ最モ緊要ニシテ徳川氏ノ善ク此ニ注意セシハ驚歎ニ堪ヘサルナリ既ニ享保安永年間ニ係ル租稅納期ノ調査書ヲ閱スルニ五畿七道各其氣候ノ寒暖ト土地ノ遠近トニ應シテ納期ヲ異ニセリ當時ノ制度此ノ如クナルヲ以テ彼ノ代官及ヒ庄屋ト稱スル者ハ徵收方ヲ以テ一科ノ學問トシテ之ヲ研究シ米穀ノ漕出ヨリ裝俵ノ諸事ニ至ルマテ注意周到セサル無カリシ是ヲ以テ一旦大政維新ノ變革

ニ遣フモ政府ハ容易ニ新例ヲ行フヲ好マス明治元年八月特ニ布告
ヲ發シ租税法ハ總テ舊貫ニ仍ル可キヲ令シ二年六月民部官ノ達書
ヲ以テ諸國年貢皆濟期月ヲ定メ殊ニ其ノ納期ノ最モ後ナル國地ハ
羽前、羽後、越後、越前能登ニシテ此等ノ數國ハ米納期ヲ七月ト爲セ
リ此ノ如キハ實ニ徵收法ノ宜キヲ得タル者トス九年大藏省ニ地方
官ヲ召集シテ諮問會ヲ開ケルヤ國地ノ便否ニ應シ地租ノ納期ヲ異
ニス可シトスル議ノ出ル有リテ本官之ニ同意セシモ終ニ行ハレス
シテ寢ミタリ是レ蓋シ今日ハ已ニ昔日ト異ニシテ租税ノ制度一變
シ全國同軌ニ歸セシニ由ルナラン若シ夫レ米納法ヲ用ヒサル今日
ニ在テハ納期ヲ異ニス可ラストセハ農民ヲ救濟スル方策ハ惟タ一
ノミ即チ納期ヲ延展スル是レナリ現時農民ノ地租ヲ納ムルニハ概

子收穫ノ米麥ヲ賣却シテ之ヲ辨ス故ニ若シ逋滯ヲ生スル無キヲ要
セハ米價ノ昂低ニ拘ラス先ツ米穀ヲ賣却シ其價金ヲ蓄藏シテ以テ
納期ヲ俟タサル可ラス然レトモ空ク金錢ヲ蓄藏スル遂ニ浪費ニ流
ルルハ人情ノ免レサル所トス此等ノ困難ヲ救正セン爲メニ各地方
納期ヲ異ニスルハ本官ノ熱望スル所ナルモ若シ事情ノ已ム能ハサ
ル有ラハ姑ク之ヲ念頭ヨリ抛却シ而シテ本案ノ六期ノ外ニ更ニ一
期ヲ延ヘント欲ス抑モ地租ハ地價ヲ以テ標準ト爲セトモ其地價ノ
標準ハ田畑ノ收穫額ニ取ラサル無シ彼ノ幕府ノ時世ニ在テハ各藩
率子五公五民ヲ定率ト爲シ加フルニ賦役ヲ以テセシモ之ヲ今日ニ
比スレハ決シテ重カラス何トナレハ地價ノ百分ノ二個半ハ然ク重
キニ非サルモ尙ホ他ニ地方稅協議費ナル者ノ在ル有テ之ヲ合算セ

ハ人民ノ負擔スル所ハ蓋シ過重ノ極度ニ達セリ現時歳年凶荒ヲ告ルニ非スシテ農民ノ日ニ困弊ニ陥ルハ此ニ職由スルヲ信ス此ノ如ク困弊ニ陥レルニ際シ米穀ノ尙ホ田面ニ在ル時ニ於テ嚴ニ地租ヲ徵收スルハ事實諒恕セサル可ラス故ニ本官ハ若シ各地方ノ納期ヲ異ニスル能ハスンハ尙ホ更ニ一期ヲ延展シテ原案ヲ存セント欲ス因テ其納期ヲ異ニスル能ハサル理由ト期納ヲ延フルモ支障ヲ來タス無キヤトノ二點ヲ内閣委員ニ質問シ其答辨ヲ得テ修正ノ考案ヲ確定セントス

出席

五十一番 津田 眞道

同

五十三番 黒田 清綱

○外三番 神輿
知常

十八番ノ質問セル二點ニ答辨セン地方ヲ區分シテ納

期ヲ異ニスル一點ハ若シ不平均ヲ論スル無クンハ素ヨリ爲ス能ハサルニ非ス其不平均トハ何ソヤ即チ一縣内ト雖モ其地質ニ隨フテ甲郡ト乙郡トハ登熟ノ時期ヲ異ニシ一郡内ト雖モ山間ト平地トハ收穫ノ時期ヲ異ニスル有リ例ヘハ京都府管内ノ如キ山城國ハ概シテ氣候温暖ニシテ其收穫ノ時期モ亦隨テ尋常ナレトモ丹波丹後國等ノ山間ノ僻村ニ在テハ殆ント北陸ノ諸縣ト收穫ノ時期ヲ同ウス故ニ若シ各地方ノ徵收期限ヲ異ニシ以テ平均ヲ得セシメントセハ每郡毎村ニ細別セサル可ラス此ノ如キ煩雜ハ耐ユル所ニ非ス若シ強テ區別セントセハ却テ不平均ヲ致シ人民ノ苦情ヲ招クヲ免レス昔時ノ課率ハ收穫ヲ以テ標準ト爲シタルカ故ニ其收穫ノ遲速ニ因テ納期ヲ異ニスルヲ得シモ一旦租稅ヲ改正シ課率ハ地價ヲ以テ標

準ト爲スヲ以テ其收獲ノ多少ハ間接ノ關係タルニ過キス故ヲ以テ各地方ノ納期ハ到底之ヲ異ニス可キニ非ス又更ニ一期ヲ延フル一點ハ實際ニ行フ可ラサル事情ノ在ル有リ本案ヲ以テ現行法ニ比スレハ已ニ二十日ノ延期ヲ與ヘリ此二十日ヲ遅延スル租金額ハ七百餘萬圓ナリ主務官ハ尙ホ少シク之ヲ延ヘント欲シ百方其考案ヲ運ラシ大藏卿モ非常ニ苦慮シテ出納調査等ノ諸局ニ諮問セシモ五月初旬ヨリ公債ノ利子ヲ支出スルヲ以テ財計ニ餘剩ヲ見ス到底延期スル能ハサルニ決セリ現ニ大藏省ニ於テ預米手續法ノ設ケ有リテ十六年ノ冬期ニ當テハ此ヲ以テ大ヒニ人民ニ便利ヲ與ヘタリ故ニ第四期ノ預米ヲ三百萬圓ト推算シ五月中旬ヲ以テ現金ニ換ル便法ヲ施行センコトヲ謀リ深ク討究ヲ加ヘタリシモ是亦遂ニ決定スル

能ハサリシ前陳ノ事情ナルヲ以テ此二十日ヲ延フルノ外ハ寸毫ノ餘裕ヲモ與フル能ハサルナリ十八番幸ニ此旨意ヲ領セヨ

○九番^{三浦安}

本案ハ現行法ノ納期ヲ改メ六期ト爲ス者ニシテ僅僅二

十日ノ延期ニ過キサルモ田方ノ二期ヲ四期ト爲シ以テ租金ヲ每期二分五厘ト定メタルハ人民ノ深ク感喜スル所ナル可ク爲メニ大ヒニ融通ノ便ヲ開キ逋滯ニ因テ公賣處分ヲ受ル者ヲ減セシメントス十八番ハ徳川氏ノ時代ニ於テ國地ノ便否ニ應シ納期ニ緩急ヲ存セシ事迹ヲ述ヘ以テ之ヲ本案ニ應用セント要セリ此制タル可ハ則チ可ナリト雖モ租稅制度ノ一變セル今日ニ在テハ到底不通ノ論ノミ舊時ハ士農工商ノ資格ヲ區限シ農民ノ商業ニ關係スルコトヲ禁止スルノミナラス官府ノ干涉ハ衣食住ノ三者ニ及ヘリ隨テ農民ハ米

價ノ昂低ニ感觸スル無ク只其收穫ノ米穀ヲ以テ貢租ニ充レハ足りシナリ之ニ反シテ今日ハ士農工商ノ段給ヲ廢シ米納ヲ變シテ金納ト爲シ之ニ加フルニ紙幣ヲ増發シタルヲ以テ米價ノ昂低ニ常度ヲ保タス農民ハ其變動ニ因テ直チニ自己ノ損益ニ關係ス故ヲ以テ必ス自ラ時價ノ昂低ヲ量リ米穀發賣ノ時機ヲ窺ハサルヲ得スシテ勢ヒ商業ニ關係スルニ至ル此事果シテ害惡ナリト爲ス乎決シテ然ラズ地租改正以來米價ハ漸ク昂騰シテ農民ノ生計ニ多少ノ餘裕ヲ生シ衣食ノ品位モ亦稍ヤ昔日ヨリ優ナリ隨テ其教育モ自然ニ進歩セルヲ以テ農民ハ昔日ノ如ク愚直ヲ本色ト爲ス能ハス畢竟此變動ニ生スル進歩ハ是皆レ米納ヲ變シテ金納ト爲シタル租法ノ改革ニ起由セサル無キナリ夫レ已ニ金納法ヲ行フ今日ニ在テハ米穀ハ賣テ

以テ金錢ニ換ヘサル可ラス一時完納ト爲セハ農民ハ俄カニ米穀ヲ賣却シ爲メニ其價格ニ非常ノ低落ヲ來スハ數ノ免レサル所ナリ且ヤ假令ヒ低落ヲ來ササルトスルモ農民ノ一時ニ巨額ノ賣得金ヲ蓄藏スルヤ知ラス識ラス濫費ニ流ルル無キヲ保セス是レ納期ヲ數回ニ分ツノ必要ヲ生スル所以ナリ愈ヨ細カニ納期ヲ分ツニ隨ヒ愈ヨ農民ノ利便ヲ増スヲ以テ此美旨ヲ徹底セシムルニハ何等ノ租稅タルヲ論セス總テ一年十二回ニ分賦スルヲ得タリトス然レトモ此事タル現今ノ場合ニ在テハ政府ノ經濟上ニ於テ到底實行スル能ハス故ニ明治十年ニ納期ヲ六回ト定メシモ十四年ニ至リ更ニ短縮シテ四回ト爲セリ此改正タル固ヨリ人民ノ便否如何ヲ顧ミス單ニ大藏省ノ計度ノミニ出テタルナリ爾後十六年ニ至リ末期ヲ三月三十一

日ニ延へ而シテ今又將サニ三期以下ヲ分割シテ四回ト爲シ且ツ一期ノ租金ヲ二分五厘ト爲シ以テ更ニ人民ニ利便ヲ與ヘントス加旃大藏卿ハ尙ホ納期ヲ寛裕ナラシムルニ熱心セリト聞ケハ爾後幾許年月ヲ經ハ遂ニ本官ノ希望スル十二月分賦ノ目的ヲ達スルヲ得ルニ至ラン前陳ノ論旨ハ十六年ニ地租第四納期改正案ヲ議スルニ際シ本官ノ略ホ説述セシ所ノ者トス若シ果シテ十二月分賦ヲ實施スル時機ニ會セハ彼ノ國地ノ寒暖ニ從ヒ納期ヲ區別スルヲ問フヲ要セス地方官ニ於テ種種ノ便法ヲ施スヲ得ヘキナリ要スルニ本案ハ本官ノ素論ヲ貫徹スル起端ヲ爲ス者ナレハ大ヒニ賛成ヲ表セサルヲ得ス且是レ明白ナル法案ナルヲ以テ他ニ異論ノ存スル無シト信スレハ本日中ニ第二第三讀會ヲ續開センコトヲ建議ス

○十六番 伊丹重賢

本案ハ善良ナル法案ナリト認ムルヲ以テ之ヲ賛成シ併セテ九番ノ建議ヲ賛成ス然ルニ聊カ内閣委員ノ説明ヲ要スル有リ即チ明治十二年大藏省達ヲ以テ諸稅領收順序ヲ定メリ此達書ニ基キ公納スル納期トハ人民ヨリ戸長ニ納ムル日ヲ言フ耶將タ戸長ヨリ郡長ニ送ル日ヲ言フ耶人民ノ或ハ此期日ヲ愆マリ知ラス識ラス罪ヲ得ンコトヲ憂フルナリ請フ之ヲ辨明セヨ

○神輿三番 知常

本法ハ郡役所ニ納ムル時ヲ以テ納期ト爲セトモ實際ヲ見ルニ戸長ハ納稅切符ヲ發シテ税金ヲ集收シ之ヲ郡役所ニ送致スルニハ多少ノ日子ヲ要シ而シテ公賣處分ハ此末期ニ至ルマテニ戸長役場ニ納メサル者ニ施スナリ然レトモ本則ハ即チ郡役所ニ納ムル時ヲ以テ期日ト爲スナレハ戸長ノ納稅切符ヲ發スルニ當テハ

豫メ納期ヨリ大略十日以前ニ納ム可キコトヲ告知シ而シテ集收セ
ル現金ハ國庫金取扱所ニ交付シ其定式ノ受領證ヲ郡長ニ提出スル
ナリ故ニ實際ニ在テハ納期ノ末日マテニ戸長役場ニ納ムレハ可ナ
ルノミ

○十六番伊丹重賢 辨明ヲ得テ大ヒニ吾心ヲ安シス十六年ニ地租第四納

期改正案ヲ議スル際ニ在テハ深ク研究セサリシモ本案ニ於テ其旨
趣ヲ明瞭ニスルヲ得タルヲ喜フナリ

○議長 發議質問共ニ盡キタリト認ムレハ第一讀會ハ此ニ畢ル本案
ハ急施ヲ要シ及ヒ九番ノ建議ヲ採リ引續キ第二讀會ヲ開ク

書記官 西山眞平 朗讀

布告案

明治十四年二月第拾四號布告地租徵收期限第三期以下左ノ通改正ス

田方

三期該年 十一月一日ヨリ 十二月十五日限 二分五厘

同

四期同 十二月十六日ヨリ 一月二十五日限 二分五厘

同

五期同 一月二十六日ヨリ 三月三十一日限 二分五厘

同

六期同 四月一日ヨリ 四月二十日限 二分五厘

右奉 勅旨布告候事

○十八番柴原和 第一讀會ニ於テ粗ホ賛成ノ大意ヲ陳ヘ尙ホ延期ヲ欲シテ内閣委員ノ辨明ヲ請ヒシニ其然スル能ハサル理由ヲ聞クヲ得タリ若シ本案ニシテ尙ホ一期ヲ延ルヲ得ハ人民ノ利便ヲ感スルハ蓋シ大ナラン又向キニ論述セシ如ク幕府ノ制ニ倣ヒ各地納期ヲ區別スルコトニ關シ定期ノ猶豫日數ヲ得テ多少考案ヲ加ヘント欲セシニ議長ハ其職權ヲ以テ九番ノ建議ヲ採用シ直チニ第二讀會ヲ開ケリ故ニ今復タ奈何トモスル能ハス内閣委員ハ更ニ延期スルコトハ大藏卿頗ル熱心之ヲ謀ルト告ケリ本官乃チ其言ヲ確信シ敢テ延期說ヲ提出セサル可シ納期ノ區分ノ如キハ金納法ヲ用ユル今日ニ實施スルノ難キヲ反省シ是亦其念ヲ斷セリ此他大藏省ニハ預米手續ノ便法ヲ設ル有リテ大ヒニ納租者ニ利便スト聞ケハ今ヤ全ク原

案ヲ是認セサルヲ得ス因テ本日直チニ第三讀會ヲモ經過センコトヲ希望ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ第二讀會ヲ畢リ直チニ第三讀會ヲ開ク
 朗讀ハ之ヲ省ク

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 總員起立

○議長 全會一致シテ可ト決ス即チ可決ノ旨ヲ具シテ上奏セン散會
 セヨ

午前第十時三十分閉場

| | |
|------|-------|
| 十九番 | 箕作麟祥 |
| 二十二番 | 中島錫胤 |
| 二十三番 | 渡邊清 |
| 二十四番 | 壬生基修 |
| 二十五番 | 細川潤次郎 |
| 二十六番 | 西周 |
| 三十番 | 楠本正隆 |
| 三十一番 | 大久保一翁 |
| 三十二番 | 久我通久 |
| 三十三番 | 神田孝平 |
| 三十四番 | 河田景與 |

| | |
|------|-------|
| 三十五番 | 籠手田安定 |
| 三十六番 | 福原實 |
| 三十七番 | 榎村正直 |
| 三十八番 | 海江田信義 |
| 四十番 | 宮本小一 |
| 四十三番 | 田邊太一 |
| 四十四番 | 三浦安 |
| 四十五番 | 大鳥圭介 |
| 四十六番 | 町田久成 |
| 四十七番 | 安藤則命 |
| 四十八番 | 岩村定高 |

五十一番 林友幸

五十二番 伊丹重賢

五十六番 何禮之

五十八番 長松幹

內閣委員 一番 參事院議官 鶴田 皓

同 二番 參事院議官補長 森 敬斐

午前第九時三十分開場

○議長 第四百七十八號議案ノ第一讀會ヲ開ク朗讀ハ布告案ニ止メ
他ハ之ヲ略ス

書記官 茂 森山 朗讀

布告案

明治十四年^{九月}第四拾四號布告及ヒ同年^{十二月}第八拾號布告ヲ廢止シ

違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

左案ハ朗讀セサリシモ參閱ニ便センカ爲メ之ヲ附記ス

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ
於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取
調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル
時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第

五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日以内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

○番鶴田 本案ノ理由ヲ略陳セン本案ハ司法卿ノ建議ニ成ル者外一番皓 外ナリ思フニ治罪法ヲ制定シ以テ違警罪裁判所ヲ設ケシモ其費用ノ

支ヘサル爲メニ十四年第四十四號布告ヲ以テ姑ク其上訴ヲ禁止シ尋テ同年第八十號布告ヲ以テ府縣ノ警察署及ヒ分署ニ其裁判ヲ委任セリ今ヤ本案ヲ發シテ前二布告ヲ廢止スルモ敢テ其裁判ノ組織ヲ變更スルニ非ス即チ各警察署ニ於テ之ヲ裁判セシムルハ同一ナリ唯其殊異ナルハ正式ノ裁判ヲ仰クヲ得セシムルノ一點ニ在リ是レ已ニ輕罪ノ控訴ヲ許セシ以上ハ違警罪モ亦其正式ノ裁判ヲ仰クヲ得セシムルノ途ヲ啓カサル可ラサレハナリ然リト雖モ專ラ治罪法ノ明文ニ從ヒ事ヲ理セント欲スレハ吏員ノ少ナキト費用ノ乏シキトノ爲メニ到底行ハル可キニ非ス故ニ唯正式裁判ヲ開キテ不服ヲ訴ルコトヲ得セシムルノミ而シテ其之ヲ許スモ違警罪ノ如キ小罪ナルヲ以テ正式裁判ヲ請求スル者ハ恐クハ之レ無カル可シ要ス

ルニ體面上ヨリシテ司法卿ノ稟議ヲ容レ以テ本案ヲ制定セリ且本案ハ模型ヲ獨逸國ニ取レルヲ以テ自カラ佛國ノ法律ト異ナル有ルナリ

○五十二番 伊丹重賢 違警罪ハ有心故造ノ者ニ非サルヲ以テ正式裁判ヲ許スハ便益ナル可シ且之ヲ許サ、レハ或ハ壓抑ニ流ル、ノ懼レ有リ故ニ大體ニ於テ之ヲ賛成ス元來即決ノ一事ハ治罪法ニ載セサル所ナレトモ其明文ノ實施ニ難キ者ハ便宜法ヲ設クルヤ亦多シ蓋シ從來此ノ如キ一時ノ便宜法ハ皆當分ノ内之ヲ施行ストノ文句ヲ掲ケリ然ルニ本案ニハ之レ無シ是レ或ハ永遠ニ施行セント欲シテ然ルヤ又第一條ノ警察署長ハ明白ニシテ疑ヒ無キモ分署長トハ何如ナル地位ノ人ヲ指スヤ本官ハ未タ其職名ヲ知ラス又第四條ノ即決

言渡書ニ警察官ノ氏名ヲ記載スルニ止ムルハ何ソヤ又第五條ノ「言渡アリタル日ヨリ三日内」トハ言渡ノ當日ヨリ起算スル乎通例ハ裁判ヲ受タル翌日ヨリ起算シテ事主ニ便益ヲ與ヘリ本案ノ之ニ反スル如キハ何ソヤ又第八條ニ必要ト認ムル場合ト言ヘリ此必要トハ如何ナル場合ヲ謂フヤ以上ノ答辨ヲ煩ハス

出席

三番

長岡 護美

○番 鶴田 外一 皓 當分ノ文字ヲ掲ケサルハ本案ヲ永遠ニ施行セント欲スルカ爲メナリ蓋シ當分トハ許ス可キ控訴ヲ當分許サスト云フ如キ反對ノ場合ヲ指スノ文字ト爲ス即チ十四年第四十四號第八十號ノ二布告ハ實ニ一時ノ便法ナルヲ以テ當分ノ字面ヲ掲ケリ然ルニ本案ヲ以テ正式ノ裁判ヲ受ルヲ許ス以上ハ設令ヒ治罪法ノ明文ニ

從フ能ハサルモ必ス之ヲ永遠ニ施行セントス第一條ノ分署長ハ警視廳ニ於テハ其職名種種ナレトモ本案ハ全國ニ普行スル者ナルヲ以テ其職名ヲ擧ケス即チ東京府下ナレハ署長ハ奏任官ヲ以テ之ニ充ツレトモ他府縣ハ職員ノ少數ナル爲メニ本署分署共ニ警部ヲ置ケトモ時トシテハ巡查ニ分署長ノ職權ヲ委任スル有リ之ヲ代理セシムル有リ故ニ職名ヲ有セスシテ署務ニ就クナリ第四條ノ氏名記載ノ一事ハ別意アルニ非ス慣例ニ從フテ氏名ヲ記載シ而シテ之ニ捺印スルナリ第五條ノ日數計算ハ治罪法ト同一ノ解釋ヲ下スヲ要ス其成文ヲ移セシモ畢竟其解釋ヲ二三ニセシメサルカ爲メナリ又第八條ノ必要ノ場合トハ逃亡ヲ謀ルカ若クハ氏名ヲ偽ル等ノ慮アル場合ヲ云フ其居所ノ分明ナル者ニハ之ヲ施サス

○二十五番 細川潤次郎

本案ヲ賛成ス蓋シ是レ本案ヲ制定スルモ實際ニ於テハ見今ト異ナル無キヲ知レハナリ思フニ治罪法ハ完全無疵ノ法典ナレトモ今日ノ實際ニ的切ナラサル事實アルヲ以テ姑ク便法ヲ施行セリ然レトモ正式ノ裁判ヲ請求スルヲ許サ、ルトキハ縱令輕微ノ罪犯ナルモ亦其冤枉ニ陷ル無キヲ保セス故ニ本案ヲ以テ之ヲ許スハ至當ト爲ス内閣委員モ辨スル如ク輕微ノ犯罪ナレハ之ヲ許スモ其請求者ハ實際ニ徵セハ甚タ稀ナラン或ハ絶無ナルヤモ知ル可ラス統計上ノ結果ハ實ニ前陳ノ如クナル可キモ法律ハ其請求ノ多少ヲ見テ取捨ス可キニ非ス萬一ニ備フル者ト雖モ道理上之ヲ許スハ當然ナリ千萬人中ノ一二人タモ冤ヲ吞ム有ラシム可ラス故ニ實際ノ有無ヲ問ハス體面上ニ於テ此改良ノ法案ヲ賛成スルナリ

○二十三番 渡邊清 本案ノ行文ニハ稍ヤ不安ノ點ヲ見レトモ大體ニ於テハ之ヲ賛成ス思フニ本案ハ世人或ハ看テ一時ノ便法ト做スマヤ知ル可ラス治罪法ノ輕罪裁判所ノ體面ヨリ之ヲ觀レハ變法ト謂フ可キモ實際ニハ著大ナル變改ヲ見サル可シ故ニ正式ノ裁判ヲ許スモ別ニ治罪法ヲ改革スルニ非サルナリ因テ問フ本案ノ標題ヲ違警罪即決例ト爲セルハ何ソヤ從來此ノ如キ單行ノ法律ハ多クハ某法某條例某規則ト署セリ今本案ニ例ト署スルハ旨趣ノ存スル有リテ然ルヤ又從前ノ諸布告ハ先ツ其制定スル者ヲ言ヒ而ル後ニ其此カ爲メニ廢止スル者ニ及フヲ常ト爲スニ本案ハ之ニ反シテ先ツ廢止スル者ヲ言ヒ後ニ新ニ制定スル者ニ及フハ何ソヤ

○外番二番 長森敬斐 第一問ハ別ニ旨趣アルニ非ス條例ト云ヒ例ト云フ其

義ハ一ナリ唯煩ヲ避ケテ簡ニ就キシノミ第二問モ亦然リ執筆者ノ意匠ニ任ス一定ノ例文アルニ非ス

○議長 發議ナキヲ以テ第一讀會ヲ了ル

○外番一 鶴田皓 直ニ第二讀會ヲ連開センコトヲ望ム

○議長 內閣委員ノ請求ニ應ス可シト思考スル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ內閣委員ノ請求ハ消滅ス議定ニ付セラレタル議案ノ堆積スルヲ以テ第二讀會ハ明後十五日ニ之ヲ開カン散會セヨ

午前第十時五分閉場

元老院會議筆記 明治十八年七月十五日

○第四百七十八號議案 違警罪即決例制定ノ儀 第二讀會

議長 東久世 通禧

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 青山 貞 |
| 二番 | 小畑 美稻 |
| 四番 | 永山 盛輝 |
| 六番 | 柴原 和 |
| 十二番 | 鍋島 幹 |
| 十四番 | 野村 素介 |
| 十五番 | 伊集院兼寛 |

| | |
|------|-------|
| 十九番 | 箕作 麟祥 |
| 二十三番 | 渡邊 清 |
| 二十四番 | 壬生 基修 |
| 二十五番 | 細川潤次郎 |
| 二十六番 | 西 周 |
| 二十九番 | 神山 那廉 |
| 三十一番 | 大久保一翁 |
| 三十二番 | 久我 通久 |
| 三十三番 | 神田 孝平 |
| 三十四番 | 河田 景與 |
| 三十六番 | 福原 實 |

| | |
|------|-------|
| 三十七番 | 榎村 正直 |
| 三十八番 | 海江田信義 |
| 三十九番 | 津田 眞道 |
| 四十番 | 宮本 小一 |
| 四十四番 | 三浦 安 |
| 四十五番 | 大鳥 圭介 |
| 四十七番 | 安藤 則命 |
| 四十八番 | 岩村 定高 |
| 五十一番 | 林 友幸 |
| 五十二番 | 伊丹 重賢 |
| 五十三番 | 村田 保 |

五十四番 西村 貞陽

五十六番 何 禮之

五十七番 井田 讓

五十八番 長松 幹

内閣委員一番外 參事院議官 鶴田 皓

同 二番外 參事院議官補長森 敬斐

午前第九時三十分開場

○議長 第四百七十八號議案ノ第二讀會ヲ開ク

出席 三十番 楠本 正隆

書記官西山 眞平 朗讀

布告案

明治十四年九月第四拾四號布告及ヒ同年十二月第八拾號布告ヲ廢止シ

違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

○六番柴原 和 本官ハ第一讀會ニ闕席シ番外ノ説明及ヒ各官ノ質問ヲ

聞クヲ得サリシヲ以テ本案中ニ疑點ナキニ非サレトモ今其質問ヲ
止メ直ニ特別建議ヲ爲サント欲ス其理由ハ他ノ布告案ニ依ルニ率
子新法ノ制定ヲ前ニ掲ケ舊法ノ廢止ハ但書ト爲シテ之ヲ後ニ記ス
ルヲ慣例ト爲ス然ルニ本案ハ特リ之ニ反シ云云廢止シ違警罪即決
例別紙ノ通制定スト爲セルハ甚タ穩安ヲ缺ク是レ宜ク修正スヘキ
ナリ其他各條中ニ改削ヲ要スル處所少ナキニ非サレハ若シ直ニ逐
條討議ニ付スルヤ必ス混雜ヲ生セン前會ニハ一人ノ廢案論ヲ唱フ

ル無カリシト聞ケハ全案ヲ修正委員ニ付託スルヲ可トス殊ニ現ニ
議ス可キ議案モ亦多ク且議官ノ暑中賜暇ノ日期既ニ迫レルヲ以テ
敢テ此建議ヲ爲ス從來議場ノ慣行タル先ツ一二條ヲ討議シ紛論決
セスシテ遂ニ委員ニ付託スルヲ常ト爲スモ若シ然ラハ本案中ノ最
モ穩妥ナラサル布告案ニ溯リテ修正ヲ加フル能ハス因テ望ム全部
付託修正委員ヲ置ンコトヲ

出席

三番

長岡 護美

○五十三番村田保 六番ノ建議ヲ賛成ス本案ノ旨趣ハ十四年第四十四
號及ヒ第八十號ノ二布告ヲ廢シ違警罪假裁判法ヲ設ケ其正式ノ裁
判ニ對シテ上訴ヲ許スニ在リ是レ蓋シ獨逸ノ違警罪假裁判法ニ取
レルナリ違警罪ノ裁判法ハ各國共ニ大同小異ニシテ本案ハ最モ本

邦ニ適ス然ルニ本案ノ條文ニハ遺漏濛漠等ノ處所ナキニ非サレハ
十分ノ修正ヲ加フルヲ要ス今試ミニ其二三ヲ指摘センニ第三條ハ
即決ノ言渡ニ對シテハ上訴ヲ許ササルヲ眼目ト爲セルニ其但書ノ
「直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス」ト言ヘル行文ヨリ之ヲ見レハ恰モ
即決ノ言渡ニ對シテハ正式ノ裁判ヲ經レハ上訴ヲ爲スヲ得ル者ノ
如ク行文甚タ穩當ナラス又第四條ニハ單ニ「警察署年月日」ト記シ
而シテ分署ノ文字ヲ掲ケス十四年第八十號布告ハ「及ヒ其分署」ノ
文字ヲ加ヘタリ其他モ概子然ラサルハ無シ是ヲ以テ之ヲ推スニ蓋
シ本案ハ誤脱セシナラン第六條ニ「訴訟ニ關スル一切ノ書類」ト言
ヘルモ是レ決シテ書類ノミニ止マラス證據及ヒ證據物件モ尙ホ送
致ヲ要ス可キハ論ヲ竣タス且第八條以下ニ據リ保證金ヲ納メシメ

タル者ノ正式裁判ヲ經タル後ニ一一之ヲ警察署ヨリ下戻サハ徒ラニ煩勞ヲ招カン是亦訴訟書類等ト共ニ違警罪裁判所ノ檢察官ニ送致スルヲ相當ナリトス第十條ハ保證金ヲ納メサルトキハ五日以内ノ留置ニ處スルコトヲ規定スレトモ其保證金ヲ代納スル者アレハ之ヲ免スノ明文ヲ掲ケス是甚タ苛酷ナリ已ニ刑法ノ輕罪ニ於テスラ罰金ヲ禁錮ニ換ヘタルトキ親屬ヨリ罰金ヲ代納スレハ其經過セシ日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免スニ非スマ況ヤ違警罪ヲ宜ク留置期限内ニ保證金ヲ完納セハ折算シテ留置ヲ免スノ寬典ヲ掲クヘシ第十一條ハ新創ノ法規ニ係リ主務省ノ上申案ニ據ラス歐洲ノ法律ニモ倣ハサル者ナリ保證金ハ第十條ニ言フ如ク拘留ノ言渡ヲ受タルトキ一日ヲ一圓ニ折算シ例ヘハ十日ノ拘留ヲ言渡サレタル者ハ十

圓ノ保證金ヲ差出サシムルナリ是レ罰金ノ性質ヲ帶ル者ニ非スシテ其出庭受刑ヲ保證スルニ外ナラス然ルニ本條ニハ被告人出庭セサルトキハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フト爲セリ實ニ保證金ノ性質ニ適應セサル者ト謂フ可シ且ヤ本條ノ如クセハ正直謹勅ナル者ハ出庭シテ本刑ヲ受ルモ暴慢狡猾ナル者ハ却テ保證金ヲ抛チテ本刑ヲ免ルルノ僥倖ヲ得ン是レ豈ニ法律ノ精神ナランヤ前陳スル如ク保證金ハ只其出庭ヲ保證スルニ止マレハ若シ出庭セサルトキハ之ヲ沒入シテ更ニ本刑ヲ科スルコト治罪法ノ保釋金ト一般ナラシムルヲ可トス主務省ノ上申案ニハ保證金ヲ沒收シテ尙ホ本刑ヲ科セリ是レ甚タ理ニ當レリ又本案中ニ保證金下戻ノ明文ヲ掲ケス故ニ人民ヲシテ本刑ヲ受ルモ尙ホ保證金ヲ下戻ササルヤノ疑ヲ抱カ

シムル無シトセス治罪法ニ於テハ保釋金ヲ還付スルコトヲ明示セ
ル有リ本案モ亦之ヲ明記スルヲ可トス其他第九條ノ「滿タサル」ノ
「タ」字若クハ第十條「五日以内」ノ「以」字ノ如キハ共ニ贅絮ニ屬ス上來
ニ陳述スル如ク本案ノ全体ハ不可ナル無キモ其局部ニハ穩妥ナラ
サル處所アレハ六番ノ建議ノ如ク全部付託修正委員ヲ置クヲ望ム
○二十五番 細川潤次郎 本官モ建議說ニ左袒ス五十三番ノ言ニ對シテハ
内閣委員ノ説明ヲ要ス其他尙ホ失當ノ點アレトモ本官ハ即決ノ文
字ニ對シ意見ヲ有セルヲ以テ先ツ之ヲ陳辨セン元來本案ハ警察署
ニ於テ簡易ナル處分ヲ施スニ在レハ此文字ニシテ或ハ可ナルモ若
シ深ク之ヲ解剖セハ即坐ニ決定スルハ抑壓ノ意味ヲ含蓄スル嫌ヒ
無キ能ハス清律ノ文例ヲ參スルニ兇惡ナル罪人ヲ直チニ斬ニ處ス

ルヲ即決ト云ヒ其字義甚タ勁キカ如シ要スルニ即決ノ文字ハ正式
裁判ニ對應スル文字ナレハ之ヲ改メテ假處分又ハ畧式裁判若クハ
假決ト爲スヲ穩當ナリト信ス本案ノ模範タル獨逸法ノ「フオートルロ
イフ井ゲ、ストラーフフェルフューグング」ナル語辭ハ即チ假處分若
クハ假處罰ナル意義ヲ有シ即決ノ意義ヲ有セス名實能ク當レリト
謂フ可シ凡ソ名ハ實ノ賓ニシテ殊ニ法律ノ如キハ其名ノ何如ニ因
リテ人民ノ感觸ニ變動ヲ與フル甚タ大ナレハ力メテ穩妥ナラサル
文字ヲ避ケ適當ナル文字ヲ擇フヲ要ス參考ニ供セン爲メニ聊カー
言ス

○二十三番 渡邊清 本官ハ初メ修正委員ヲ設クルヲ要セスト思惟シタ
レトモ一二ノ修改ヲ加フ可キ條項ナキニ非ス第一讀會ニ於テ布告

案ノ行文ノ前例ニ反スルヲ質セリ又第八條モ他ノ例ト異ニシテ「後ノ數條ニ定メタル」云云ト掲ケ而シテ其數條トハ第九第十ノ兩條ニ在リ因テ本官ハ之ヲ移シテ第八條ノ第一第二ノ兩項ト爲スヲ穩當ナリト思考ス其他尙ホ文字ノ修改ス可キ者アリ且五十三番ノ發言中ニハ本官ノ感服スル者少ナカラス二十五番ノ即決ナル文字ニ對スル意見モ頗ル討究ヲ要ス可キ者ナリト思惟スレハ六番ノ建議ニ決スルヲ得タリトス

○外番一皓番鶴田

修正委員ヲ設ル建議說出テ二三ノ賛成者アルモ是レ本員等ノ喙ヲ容ル可キニ非ス只五十三番ノ發言ニ對シ參考ノ爲メニ簡單ニ一辨セン第三條ニ「直ニ上訴スルコトヲ得ス」ト記スルヲ見テ即決ノ言渡ニ對シテハ正式ノ裁判ヲ經レハ上訴スルヲ得ル如

ク解釋スルヲ恐ルト云フモ果シテ然ク解釋スル愚人アル可キヤ凡ソ文章ハ扞ケテ解釋ヲ下サハ何如ナル理由ヲモ附會ス可シト雖モ即決ノ言渡ニ對シテ一旦正式裁判ヲ仰キ而シテ上訴ヲ爲スニ方リ更ニ即決ノ言渡ニ溯回シテ上訴スル如キハ事理上決シテ之レ有ル可キニ非ス即決ノ言渡ニ對シテ一旦正式裁判ヲ經ハ即決裁判ハ消滅スル者ニシテ畢竟上訴ハ治罪法ノ規則ニ依ラサル可ラス本案ハ徹頭徹尾即決言渡ニ對シテハ上訴ヲ許ササルナリ又第四條ニ「分署」ノ文字ヲ掲ケサルハ第一條ニ讓リテ煩ヲ避ケタリ凡ソ法文ハ詳畧其宜キヲ量リ前ニ詳ニ後ニ畧スルヲ常例ト爲ス故ニ缺典ヲ以テ之ヲ目ス可キニ非ス他ノ法令ニ於テ單ニ裁判所ト記スルトキハ支廳ヲモ含蓄スルト其例ヲ異ニスル無シ又第六條ニ所謂ル訴訟ニ

關スル一切ノ書類トハ素ヨリ畧記セル者ニシテ其證憑書類ヲ含蓄スルハ治罪法第三百四十條ニ「訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ云云」ト明記セル其一切書類中ニ證憑書類ヲ含蓄スルト同シ然レトモ違警罪ハ本ト輕微ノ犯罪ニ係リ其犯者ノ夥多ナル場合ニハ一時間ニ二百人内外ヲ處分スルコト有リ故ハ務メテ速決スルヲ要シ且費用ヲ省減スル主意ナレハ一一ニ證據物件ヲ集蒐シテ鄭重ノ順叙ヲ蹈ムコト猶ホ彼ノ重罪輕罪ニ於ケルコトクス可キニ非ス例ヘハ標旗ヲ掲ケスシテ火藥ヲ運搬セル者ヲ處分スルニ若シ其火藥ヲ證據物件トシテ警察署ニ運致セハ其費用ト煩勞トハ蓋シ少小ナラサル可シ元來本案ハ一ハ費用ヲ省減スルヲ目的ト爲スヲ以テ證憑書類ノ如キハ最モ簡畧ナル者ニ止ム實際或ハ之レ無キ場合モ有ル可キナリ

法律ノ体面ヨリ之ヲ言ヘハ違警罪犯ニ對シテモ重輕罪犯ト同一ノ手續ヲ執行スルヲ當然ト爲セトモ上來陳述セル事理アルヲ以テ實際ハ然スル能ハス然ルヲ論者ノ言ノ如ク牛馬舟車ヲ問ハス苟モ犯罪ニ關スル物件ヲ一一ニ證據物件トシテ警察署ニ運搬シ違警罪裁判所ニ送致スル者ト爲セハ本案ノ實行ハ到底望ム可ラサルナリ又第十一條ノ問難ハ司法省ノ上申案ト同一ニシテ一應其理ナキニ非ス然レトモ參事院ハ本案ノ如ク修改ヲ加ヘ司法卿モ亦遂ニ之ニ同意シタリ畢竟本條ノ旨趣モ亦費用ヲ省減スルニ外ナラス保證金ヲ納メテ出庭セサル者ハ率子逃亡セル者ナリ然ルニ其保證金ヲ没入シテ尙ホ本刑ヲ科セントセハ百方搜索スルヲ要シ其費用ト煩勞トハ決シテ輕淺ナラス因テ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フル寬典ヲ

存セルナリ司法卿ハ拘留一日ヲ一圓ニ折算シテ科料ニ換フル寛典ヲ存センコトヲ再申セリ是レ大ニ條約改正ニ關係ヲ有スルモ參事院ハ是レ刑法ニ追加ス可キ事ニ係リ本案ニ入ル可キニ非ストシテ拒却シタリ元來本案ハ警察署ニ於テ從來實行セシ手續ニ依リ制定セル者ニシテ輕微ナル違警罪犯者ヲシテ出庭受刑セシムルスラ尙ホ鄭重ニ過クレトモ今日ノ現狀未タ然スル能ハス故ニ論者ノ言ノ如ク保證金ヲ没入シテ尙ホ本刑ヲ科ストセハ違警罪ノ刑ハ輕罪ノ刑ノ輕キ者ヨリモ却テ重キニ出テントス向キニ一年間ノ違警罪犯ノ人數ヲ東京府下警察署中ノ五署ニ就キ調査セシニ大凡三千餘人ニシテ計内拘留ニ處セル者七十人内外ニ過キス此七十人中ニ正式裁判ヲ請求スル者ヲ十人ト見レハ其殘數六十人中ニ出庭受刑セサ

ル者ハ蓋シ二三人ニ過キサラン此少數ノ犯者ニ對シ法律ニ於テ嚴酷ノ處分ヲ設クルモ然ク効用ヲ見スト思料スレハ寧口寛典ニ付スルニ如カス是レ司法卿ノ同意ヲ經テ本案ノ如ク修改セシ所以ナリ此他文字ノ修改ハ何様ニ之ヲ爲スモ可ナレトモ以上ノ數點ハ修正ヲ受ルヲ好マス二十五番ハ即決ノ文字ニ對シ批難ヲ下セリ說ノ如ク支那ノ刑律ニ用ユル即決ノ文字ハ嚴酷ノ意味ヲ含蓄スレトモ本案ニ於テハ速ニ裁決スル意義ニシテ彼ノ即席料理ノ「即」ノ字ト異ナル無シ例スルニ一犯者ヲ逮捕セハ煩雜ナル手續ヲ用ヒス又濫ニ時間ヲ費ヤサスシテ即日ニ裁決スルヲ云フニ在レハ人民ヲシテ然ク恐怖ノ念ヲ懷カシムル無ラン但シ尙ホ一層適當ナル文字アラハ修正スルモ可ナリ本官ハ本案ノ爲メニ修正委員ヲ設クル要用ヲ見

スト思料スレトモ個ハ是レ本官等ノ敢テ抗辨ス可キニ非サルノミ
 ○十九番麟作 尙ホ少シク疑義アレハ第二讀會ナルモ内閣委員ニ質
 問ス本案ノ布告文ニ十四年第四十四號ノ布告ヲ廢止スルコトヲ明
 記ス此布告ハ素ト單簡ナル者ニシテ違警罪ノ上訴ヲ許ササルニ止
 マル夫レ上訴ヲ許ササルト即決例ヲ制定スルトハ全ク其事類ヲ異
 ニシ氣脉相通セサルカ如シ然ルヲ一併ニ本案ニ掲クルハ如何ナル
 理由ニ出ツル耶本官ハ第四十四號布告廢止ノ一事ハ別號ノ布告ト
 爲スヲ當然ナリト思考ス蓋シ第三條ノ解釋ニ關シテ種種議論出タ
 レトモ此條ニ掲クル上訴ハ正式裁判ニ對シ治罪法ノ手續ニ從フテ
 之ヲ爲ス者ニ係リ第四十四號布告ヲ廢止セハ此明文ハ無要ニ歸ス
 ルカ如シ幸ニ説明ヲ與ヘヨ

○鶴田 第一讀會ニ陳述セシ如ク原案ノ旨趣ヲ變更セサル限
 外皓 リハ布告文案ヲ何様ニ修改スルモ可ナリ内閣ニ於テ主務省ノ上申
 案ヲ修改シテ原案ノ如クセシハ其理由ナキニ非ス近來舊法ヲ廢止
 シ新法ヲ制定スルニハ制定ヲ先ニシ廢止ヲ後ニスルヲ慣例ト爲ス
 然レトモ獨リ本案ハ從來違警罪ノ處分ヲ各警察署ニ委任セシヲ今
 者一定ノ裁判法ヲ設ケテ之ヲ改ムルニ在リテ此即決例ハ即チ慣行
 ノ變体ト謂フモ可ナレハ先ツ舊法ノ廢止ヲ示シ後ニ新法ノ制定ヲ
 示セシナリ十九番ハ十四年第四十四號布告ハ此即決例ニ關係ヲ有セ
 スト云フモ其布告ハ獨リ上訴ニノミ關スル者ニ非ス試ミニ其成文
 ヲ舉ンニ曰ク「違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘ
 シト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヲヒ其

裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サスト是レ以テ上訴禁止ト便宜處分トノ自働他働ノ二事ヲ規定セルナリ故ニ若シ此布告ヲ廢止セスンハ便宜處分ノ法律ハ尙ホ存在シ即決例ヲ實行スル能ハサラントス然ラハ則チ十四年第四十四號布告ハ即決例ニ關係セストハ斷言ス可ラサルナリ

○議長 發議已ニ盡キタリト認ムルヲ以テ六番ノ建議ノ決ヲ取ン即チ全部付託修正委員ヲ設クルニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十七人

○議長 多數ナルヲ以テ建議說ニ可決シ投票ヲ以テ修正委員五名ヲ撰定セン

投票執行

○議長 得點多數ノ順叙ニ從ヒ十九番箕作麟祥五十三番村田保六番柴原和一番青山美稻ニ番小畑ノ五名ヲ以テ全部付託修正委員ト爲ス其報告ヲ俟チ續會ヲ開カン各位散會セヨ

午前第十一時閉場

元老院會議筆記明治十八年七月二十一日

○第四百七十八號議案違警罪即決第二讀會七月十五日續會

議長東久世通禧

出席議員

| | |
|----|------|
| 一番 | 青山貞 |
| 二番 | 小畑美稻 |
| 四番 | 永山盛輝 |
| 五番 | 上杉茂憲 |
| 六番 | 柴原和 |
| 七番 | 本田親雄 |
| 十番 | 由利公正 |

| | | |
|------|----|-----|
| 十七番 | 田中 | 芳男 |
| 十八番 | 津田 | 出 |
| 十九番 | 箕作 | 麟祥 |
| 二十二番 | 中島 | 錫胤 |
| 二十三番 | 渡邊 | 清 |
| 二十四番 | 壬生 | 基修 |
| 二十五番 | 細川 | 潤次郎 |
| 二十六番 | 西 | 周 |
| 二十七番 | 鍋島 | 直彬 |
| 二十九番 | 神山 | 郡廉 |
| 三十番 | 楠本 | 正隆 |

| | | |
|------|-----|----|
| 三十二番 | 久我 | 通久 |
| 三十三番 | 神田 | 孝平 |
| 三十四番 | 河田 | 景與 |
| 三十五番 | 籠手田 | 安定 |
| 三十六番 | 福原 | 實 |
| 三十七番 | 榎村 | 正直 |
| 四十番 | 宮本 | 小一 |
| 四十三番 | 田邊 | 太一 |
| 四十五番 | 大鳥 | 圭介 |
| 四十七番 | 安藤 | 則命 |
| 四十八番 | 岩村 | 定高 |

- 五十一番 林 友幸
 - 五十二番 伊丹 重賢
 - 五十三番 村田 保
 - 五十五番 黒田 清綱
 - 五十七番 井田 讓
 - 五十八番 長松 幹
- 内閣委員 一番外 參事院議官 鶴田 皓
一番外 參事院議官補長 森 敬斐
 同

午前第九時十五分開場

○議長 第四百七十八號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク

○六番 柴原和 本案ニ就テハ議長ハ原案修正案其孰レヲ議題ト爲スヤ

ノ決ヲ取ララルルナラン因テ之ニ先タチ修正ノ理由ヲ略陳セン原案ハ編制甚タ善キヲ以テ其大體ハ之ヲ賛成シ本官輩ノ修正ハ概ネ文字上ニ止マレリ布告案ノ「例」ヲ法ニ改メタルハ從來法律ニ名クルニ條例若クハ法ト云フヲ成例ト爲スナルモ未タ曾テ例ノ一字ヲ以テスル者ヲ見ス故ニ意義ニ異同無キモ寧ロ成例ニ從ヘリ然リト雖モ強テ法ニ改メント固執スルニ非ス或ハ手續ニ作ルモ可ナラン又第一讀會ニ際シ從來ノ布告ハ新法ノ制定ヲ前ニ示シ舊法ノ廢止ヲ後ニ掲クルヲ例ト爲ストスル論出タレトモ是レ多クハ但ノ字ヲ置キ以テ前ヲ承ルニ用フル者ノ如シ然ルニ本案ノ文法ハ之ニ反ス故ニ辭句ヲ顛倒セスシテ原案ニ從フ第三條第二行ノ「正式ノ裁判ヲ經スシテ直ニ」ヲ削リシハ治罪法既ニ其明文ヲ掲クルニ由ル且ヤ

原案ハ讀テ字ノ如ク解スレハ正式ノ裁判ヲ經レハ直ニ即決ノ言渡ニ對シテ上訴スルヲ得ルヤノ嫌ヒ有リ故ニ重複ニ似タレトモ「即決ノ言渡ニ對シテハ」ト改メ以テ其疑似ヲ避ク第十一條ノ修正ハ第九條第十條若クハ第八條ノ「必要ト認ムル場合」等ニ注目スルヲ要ス蓋シ犯人ノ居所明白ナラス或ハ其逃亡ヲ虞カル場合ニ於テハ警察官直ニ本案ニ定メタル處分ヲ爲ス可キモ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フルハ甚タ謂レ無シト信ス即チ原案ノ如クスレハ邪曲ノ徒ハ出庭セス保證金ノ没入ニ止マリテ本刑ヲ免カレ翌日ヨリシテ意氣揚揚警察署前ヲ徘徊スルノ自由ヲ得セシムルナリ且夫レ拘留ナル者ハ金圓ヲ以テ之ヲ贖フヲ得ル者ナラサルヲ要スルニ居所明白ナラサル犯人ハ保證金ノ沒收ニ因リテ本刑ヲ免カレ居所明白ナ

ル犯人ハ却テ本刑ヲ受ル如キ不理殊ニ甚シ因テ治罪法第二百十四條ノ文例ニ倣フテ修正ヲ加ヘ以テ本刑ハ必ス之ヲ科シ保證金ハ全部又ハ幾分ヲ没入スト爲セリ第四條ノ「場」ノ字ハ誤刷ナルヲ以テ之ヲ正シ第十條ノ「以内」ノ以モ他條ノ文例ニ倣フテ之ヲ削ル修正ノ理由概ネ此ノ如シ尙ホ遺漏スル各點ハ他ノ委員ノ補陳ス可キナリ

出席

四十六番 町田 久成

同

四十四番 三浦 安

同

三十九番 津田 眞道

○二十三番 渡邊清

報告案ノ修正ハ一理無キニ非サレトモ本官ハ寧ロ

原案ヲ認メテ穩當ト做ス第三條第十一條等皆是レ違警罪ニシテ其

性質素ト輕罪ニ異ナリ況ヤ其處分法ヲ煩雜ナラシムルトキハ隨テ地方ノ費用ヲ増加スルヲヤ故ニ原案ニ從フヲ可トス

○四十四番 三浦安

本官ハ初ヨリ第十一條ヲ除キ其他ハ原案ニテ可ナリト信シ修正委員ヲ設クル建議ニモ同意ヲ表セサリシ然ルニ報告案ハ恰モ本官ノ意見ト同ク其修正ハ唯第十一條ニ止メ他條ハ概ネ字句ヲ訂正セルノミ此ノ如ク簡潔ニ修正セシハ本官ノ甚タ喜フ所ナリ要スルニ法ト云ヒ例ト云フモ同義ナレハ必シモ原案ヲ改メスシテ可ナリ第十一條ノ修正ハ大ヒニ之ヲ賛成ス

○議長 修正委員ノ報告案ヲ以テ本案ト爲シテ議スルニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十九人

○議長 多數ナルヲ以テ修正報告案ヲ議題ト爲ス

書記官 西山眞平 朗讀

布告案

明治十四年 九月 第四拾四號布告及ヒ同年 十二月 第八拾號布告ヲ廢止シ

違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

○二十三番 渡邊清

布告案ヲ修正セン過刻修正委員ハ例ヲ法ニ改メタル理由ヲ説明セシモ未タ以テ辭句ヲ顛倒スルニ及ハス思フニ文例ナル者ハ千差萬別ナレトモ本案ノ文例ノ如キハ概ネ結フニ何年月日ヨリ施行スト云フ等ノ文句ヲ以テスルトキニ限レリ第一讀會ニ當リ内閣委員ハ例ヲ改メテ法ニ作ルモ將タ字句ヲ顛倒スルモ抗辨

セスト明言セリ故ニ本官ハ例ヲ法ニ改ムルハ修正委員ノ意見ニ從
ヒ更ニ廢止ト制定トヲ顛倒セント欲ス

○二十四番壬生 基修 賛成ス修正委員ハ例ヲ改メテ法ト爲スヲ可ナリト

辨スレトモ本官ノ意見ハ之ニ反ス法ノ字ヲ用フルトキハ事或ハ莊
嚴ニ過クル嫌ヒ有リ此處ハ手續等ノ輕易ナル文字ヲ着クルヲ穩安
ナリト信ス

○議長 二十三番ノ修正文ハ如何ン

○二十三番渡邊 清 即チ違警罪即決法別冊ノ通制定シ明治十四年云云
ハ廢止スト爲ス是レナリ

出席 十二番 鍋島 幹

○二十四番壬生 基修 本官ハ二十三番ノ言ヲ誤聞セルヲ以テ前言ヲ收銷

ス

○議長 二十三番ノ修正ハ賛成者無キヲ以テ消滅ス

○外一番鶴田 皓 例ノ字ハ司法省ノ上申案ヲ襲用セリ其理由ハ法ト云

ヘハ重キニ失スルヲ以テ實際上治罪法中ノ一例ト做スニ在リ其條
例ト云ハサルハ一事全體ニ涉ラサル法律ナルヲ以テナリ論者或ハ
法律ニ名クルニ例ノ一字ヲ以テスル成例ヲ見スト難スレトモ之ヲ
用フルモ何ノ害カ之レ有ラン二十四番モ法ノ字ハ莊嚴ニ過クト辨
論セシヲ以テ聊カ茲ニ一言ス然リ而モ敢テ抗辨スルニハ非サルナ
リ

○二十四番壬生 基修 本官ハ本案ヲ原案ニ復シ即チ「法」ノ字ヲ例ノ字ニ
復セント欲ス

○四十四番 三浦安

賛成ス條例トハ條ヲ備フル例ノ意ナレハ單ニ例ト云フモ可ナリ即チ違警罪即決ノ處分ヲ規定シ爾後此ニ從ヒ措置セヨト云フニ在ルナリ從前ノ事跡ヲ例ト云ヒ即チ「タメシ」ト云フノ用法モ有レトモ「ヲキテ」ト云フノ意ニ此字ヲ用フルモ可ナリトス故ニ例ノ一字ヲ用ヒタル成例ヲ見スト云フヲ口實ト爲シテ特ニ原案ヲ改ムルノ功用ヲ見サルナリ本官ハ司法省ノ上申案ノ意味ハ或ハ內閣委員ノ辨明スル如クナルヤ否ヲ知ラサレトモ其如何ニ關セス法ノ字ヲ用フルヨリモ例ノ字ヲ用フルヲ穩妥ナリト信ス便次ニ一辨セン獸醫規則ノ布告案ヲ議スルニ際シ旁ヲ本案ノ布告案ノ文字ヲ顛倒スルハ本院ノ關與ス可キ所ニ非スト豫言セルハ蓋シ是カ爲メナリ

○議長 二十四番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十五番 細川潤次郎

本官モ現問題ニ同意ス法ト云ヒ例ト云フ其意味ハ同一ナレトモ亦必シモ法ニ修改ス可キノ理由ヲ見ス既ニ刑法ニモ法例刑例等ノ文字ヲ掲ケリ今後モ亦例ノ字ヲ用フル無キヲ保セス故ニ本官ハ強テ例ノ字ヲ善シト云フニ非サレトモ特ニ之ヲ修改スルノ効用ヲ見サルナリ

○十九番 箕作麟祥

本官輩ノ修正ノ理由ハ既ニ六番ノ説明セルモ尙ホ聊カ補陳セン抑モ例ノ字ノ用例無キハ內閣委員モ明言スル所ナリ既ニ法例條例等ノ成例ヲ攔キ今必シモ例ノ一字ヲ用フル變例ヲ創ムル理由ヲ知ラス且夫レ例ノ文字タル之ヲ此ニ用フルトキハ他ニ對シテ大ヒニ疑惑ヲ起生ス即チ大審院控訴裁判所等ニ於テ完結セシ

裁判事件ヲ編纂シタル者ヲ裁判例ト云フ此語辭ハ西洋語ノ翻譯ニシテ其意義ノ當否如何ハ之ヲ知ラサレトモ亦敢テ一箇ノ法律ヲ成ス者ニ非ス唯彼ノ様本タルノ意味ヲ爲スノミ本案ノ即決トハ裁判ト云フ如キ働字ナルヲ以テ或ハ恐ル即決例ト云フトキハ彼ノ裁判例ト同ク様本タルノ解釋ヲ下ス有ラシコトヲ本案ハ獨逸法ニ倣ヒ治罪法ノ中ニ一法ヲ設クルナレハ法ニ作ルヲ可トス又布告文ヲ顛倒ス可シトスル意見ハ第一讀會ニハ之ヲ懷キシモ修正委員席ニ在テ内閣委員ノ説明ヲ聞キ大ヒニ悟ル所アリ因テ前說ヲ屏ク是レ蓋シ獸醫規則案ノ會議ニ當リ豫言セシ所アルヲ以テ今此ニ及フナリ

○四十四番 三浦安

法ニ改メサレハ看テ裁判例ノ例ト做スノ嫌ヒ有リ

ト云フハ未タ以テ修正ノ理由ト爲スニ足ラス今後漸次ニ裁判例ヲ編纂ス可キモ其例ハ決シテ奉勅布告ノ例ニ非ス且ヤ今日ニシテ例ノ字ヲ用フ可ラスト爲サハ爾後復タ之ヲ用フル時期ナカラシ

○議長 二十四番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 少數ナルヲ以テ二十四番ノ修正說ハ消滅ス他ニ發議無キヲ以テ本案ニ可定セリト認メ次ニ移ル

書記官 西山眞平 朗讀

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ

於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 西山 眞平 朗讀

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取

調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル

時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

○議長 本案ニ可定セリト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求

スルコトヲ得但即決ノ言渡ニ對シテハ正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ

得ス

○四十五番 大鳥 圭介 本官ハ本條ヲ原案ニ復セント欲ス下付原案ト修正

報告案トヲ對照スルニ修正報告案ノ稍ヤ下付原案ニ勝レルヲ以テ

本官ハ之ニ同意セシモ本條ノ如キハ原案ヲ勝レリトス思フニ付託

委員ノ修正ト雖モ敢テ明白ヲ缺クニハ非サレトモ彼此ヲ比較スル

トキハ原案却テ流暢ナリ然レトモ原案モ亦未タ美盡シ善盡セリト

云フヲ得ス内閣モ此行文ニ苦心セシヲ推ス可ク是レ實ニ筆ヲ下ス

ニ難キナリ夫レ正式ノ裁判ヲ請求スルハ上訴ヲ爲スノ端緒ニ係ル

故ニ原案ハ正式ノ裁判ヲ經サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得スト言ヒニ

箇ノ「不」ノ字ヲ疊用セリ是ニ於テ意義始メテ分明ナリ然リ而シテ第四十四號布告ヲ廢止スル關係ヨリ之ヲ觀レハ三尺ノ童子モ亦本條ノ意義ヲ明解スルヲ得ン「直チニ」ノ文字ハ前二條ニモ在ル有リテ甚タ必要ナリトス原案モ其行文ニハ瑕瑾無キニ非スト雖モ其意義ハ分明ナレハ強テ修正ヲ加フルヲ須ヒス

○二十三番 渡邊清

賛成ス本官モ原案ヲ分明ナリト信ス是レ蓋シ艱澁ナル意義ヲ簡潔ニ收縮シタル者ナレハ自ラ嚙蠟ノ憾ミ無キニハ非サレトモ其文義ハ本ト分明ナリ違警罪ハ輕罪ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ本條ハ即決ノ言渡ニ對シテ正式ノ裁判ヲ請求スルトキハ上訴スルヲ得ルモ此ヲ經サレハ上訴スルヲ得サルヲ示スニ在リ故ニ朱書ノ如クスレハ意義自ラ迂遠ニ流ル若シ原案ノ意義ノ分明ナラ

サレハ朱書ノ如ク修改スルモ可ナレトモ意義既ニ分明ナル以上ハ何ソ此修改ヲ要セン且假令朱書ニ從フ可シト做スモ「直チニ」ノ文字ハ決シテ削除ス可キニ非サルナリ

○議長 四十五番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五十三番 村田保

原案モ敢テ其意義分明ヲ缺クニハ非サレトモ自ラ語弊ヲ含メルヲ免レス故ニ他ニ此ニ勝レル好修正ヲ得サル限りハ寧ロ本官輩ノ修正ニ從フヲ當然ナリトス四十五番ハ本條ハ唯上訴ヲ得ルヲ示スニ在リト云フモ個ハ是レ第四十四號布告ヲ廢止スル以上ハ言ハスシテ明白ナリ故ニ即決ノ言渡ニ對シテハ上訴ヲ爲スヲ得スト明示スルヲ可トス司法省ノ上申案モ此ノ如キナリ

○五十二番 伊丹重賢

四十五番ヲ賛成ス只今修正委員ノ一人ハ第四十四

○號ヲ廢止スレハ上訴ヲ得ルハ分明ナリト辨セリ實ニ然ラン然レトモ彼此共ニ是ナリトセハ寧ロ原案ニ復スルヲ可トス要スルニ表裏ヨリ文ヲ行ルニ過キス而シテ冒頭ニ即決云云ト掲ケ又之ヲ複ヌルハ語路流暢ナラス故ニ原案ヲ可ト爲スナリ

○二十五番 細川潤次郎

現問題ニ對シテモ二十四番ノ動議ニ對スルト同

一ノ精神ヲ以テ之ヲ賛成ス修正案ハ即決云云ヲ複子テ煩雜ヲ致セルヲ覺フ但以下ヲ別項ト爲サハ猶ホ可ナルモ既ニ然セス且語路モ亦順ナラス故ニ本官ハ四十五番ニ同意スルナリ然レトモ本官ハ此ノ如ク艱澁ナル文字ヲ用ヒスシテ可ナリト信ス思フニ原案ト雖モ瑕瑾無キニ非サルヲ以テ寧ロ「正式」ノ裁判ヲ經スシテ「ヲ」削除セハ更ニ一點ノ疑惑ヲ存セサラン修正委員ノ朱書ヲ添加シタルモ此

ヲ過慮セシニ外ナラサル可シ是ヲ以テ現問題ノ消滅スルヲ待テ前陳ノ修正說ヲ提出スルモ可ナレトモ今姑ク現問題ヲ賛成ス

○十九番 箕作麟祥

原案モ意義分明ナラサルニハ非サレトモ正式ノ裁判

云云ヲ複ヌルトキハ實際上ト解釋上トニ異同ヲ生スルノ恐れ有リ故ニ實際上ハ正式ノ裁判ヲ經サレハ即決ノ言渡ニ對シテ上訴ヲ爲スヲ得スト云フ可キモ文章上ノ解釋ニ於テハ敢テ然ル能ハス看ヨ原案ノ如ク「正式」ノ裁判ヲ經スシテ直ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス」ト言ヘハ即決ノ裁判ニ對シテハ正式ノ裁判ヲ經スシテ直ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ルトノ反相ヲ呈スルヲ奈何セン本官輩モ即決ノ文字ヲ複ヌルヲ嫌惡シ委員席ニ於テモ寧ロ別項ト爲スコキヤヲ論シ又司法省ノ上申案ノ如ク上訴スルヲ得スノ一句ヲ冒頭ニ掲ク可キヤヲ

論セシモ既ニ第四十四號布告ヲ廢止スル以上ハ然スル能ハサルヲ以テ終ニ即決云云ヲ複ヌルノ已ムヲ得サルニ至レリ然ルニ二十五番ノ豫陳說ハ却テ可ナル如キヲ以テ本官モ之ニ同意セント欲ス要スルニ文字完周ナラサレハ自ラ實際上ニ障礙ヲ生スルナリ是ヲ以テ四十五番ニ左袒スル能ハス

○四十四番

三浦安

原案ニ復スル動議ヲ賛成ス本官ハ實ニ第十一條ヲ除キ他ハ盡ク原案ヲ是認ス本條ノ「直チニ」ノ文字ノ如キ最モ必要ナル者ナリ若シ原案修正案共ニ不完全ト爲サハ寧ロ原案ニ從フ可キノ三十九番ノ云ヘル正式ノ裁判ヲ經スシテ即決ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲スコトハ實際上必無ナリトス

○三十七番

榎村正直

本官モ現問題ヲ賛成ス朱書ノ修正文字ハ但書ニ用

フ可キ語例ニ非スシテ必ス本文ト爲ス可キ者ナラン司法省ノ上申案ニハ其冒頭ニ即決ノ言渡ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得スト掲クルヲ以テ固ヨリ可ナレトモ但書ト爲スハ穩妥ヲ缺ク然レトモ本問題不幸ニモ消滅セハ更ニ二十五番ノ豫陳說ヲ賛成セントス

○外一番

鶴田皓

現問題ニ對シテハ各位ノ陳辨ニ於テ原案ノ意義ヲ竭セリト雖モ尙ホ聊カ補陳センニ原案ノ即決云云ノ一句ハ通貫シテ結末ニ及フ者ナルニ更ニ但即決云云ノ一句ヲ添フルハ重複タルヲ免レス故ニ司法省ノ上申案ヲ改竄セリ第四十四號布告ハ既ニ已ニ三年内外實際ニ施行セル者ナリ然ルニ今者之ヲ廢止スル以上ハ上訴ヲ許スナルニ本條ニ於テ上訴ヲ許サスト言フハ甚タ不可ナリ故ヲ以テ原案ノ如ク草定スルニ決セリ正式云云ハ治罪法ニ其明文ア

ルヲ以テ之ヲ此ニ掲クルヲ要セスト云フモ本案ニ於テハ亦必ス之ヲ言ハサル可ラス十九番ノ云ヘル即決ノ言渡ニ對シテ直ニ上訴スルヲ得ルト爲ス如キ解釋ヲ下スハ實際必無ノ事ニ屬ス思フニ即決ノ裁判ニ服セサル爲メニ正式ノ裁判ヲ仰キ其正式ノ裁判ニ於テ即決ノ裁判ヲ破毀セサルトキ始メテ上訴ヲ爲ス者ナリ故ニ此上訴ハ正式ノ裁判ニ對スル者タルヤ辨ヲ待タスシテ明白ナリトス

○三十九番 津田眞道 本問題ヲ賛成ス短條中ニ於テ即決云云ヲ複ヌルハ煩冗ナリ元來本官ハ違警罪ニ上訴ヲ許スノ果シテ善ナリヤ惡ナリヤヲ詳ニスル能ハス思フニ今日我カ人民ノ智識ノ愚蒙ナル輕罪違警罪ニ上訴ヲ許セハ或ハ却テ煩累ヲ人民ニ及ホス無キ乎然リト雖モ外交上ノ政畧ヨリシテ本案ヲ發布セントスルニ在レハ本官ハ之

ヲ賛成センノミ

○六番

柴原和

四十五番等ハ實際必無ノ事ニ係レハ修正ヲ要セスト論

スレトモ法文ニ於テハ決シテ然ク斷言スル能ハス既ニ治罪法ニ明文ノ存セルヲ以テ本條ノ但以下ハ要用ナラサルニ似タレトモ意義稍ヤ周到ナラサルヲ憾ムヨリシテ之ヲ加ヘ以テ疑惑ヲ斷チタルナリ故ニ本官モ二十五番ノ豫陳說ニハ修正委員タルニ拘ラスシテ之ヲ賛成ス可キモ現問題ニハ首肯スル能ハス

○議長 四十五番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十人

○議長 多數ナルヲ以テ四十五番ノ修正說ニ決ス

書記官 西山眞平 朗讀

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日以内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ^{正當ノ事由ナクシテ}出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シ_{スヘシ}

テ本刑ニ換フ

○三十三番 神田 孝平 朱書ノ修正ニ對シ一言セン抑モ此修正ハ徒ニ煩勞

ヲ官民ニ及ホシ毫モ即決法ノ利便ヲ收メサル者トス設令修正案ヲ以テ正當ノ道理ヲ有スト爲スモ違警罪ニ關シ此道理ヲ踐ント欲スルハ本官ノ望ム所ニ非ス試ニ思ヘ即決法ハ何ノ爲メニ之ヲ設クル者ナルヤヲ是レ官民ノ煩勞ヲ避ケテ利便ニ就ク爲メニスルニ非スヤ然レハ即チ簡便ノ利益ハ即チ此法ノ主眼ナリ修正委員ハ原案ノ

如ク金錢ヲ以テ本刑ニ換フルトキハ犯人ハ其没入ノ翌日ヨリ揚揚トシテ公署ノ門前ヲ徘徊シ敢テ憚ル無キノ弊ヲ生スト云ヘリ然レトモ是レ既ニ保證金ヲ没入セラレ以テ本刑ヲ免カレタルナレハ復タ其人ノ行爲ノ如何ヲ問フヲ要セス若シ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換ヘサルトキハ其本刑ハ尙ホ現存スルカ故ニ揚揚トシテ世間ニ徘徊ス可キニ非ス然レトモ亦一一其人相ヲ記取シテ之ヲ逮捕スルハ到底爲スヲ得ヘカラス又若シ未決以前ニ精密ノ審査ヲ加ヘハ是カ爲メニ却テ罰科ヲ免カル者ヲ生セシメントス又論者ハ寒貧無頼ノ徒ハ出庭セスシテ本刑ヲ免カレ身分ヲ帶ヒ財産ヲ有スル良民ハ却テ本刑ヲ受クルノ不公平ヲ見ルト云フモ是レ已ムヲ得サルノミ蓋シ同一ノ刑モ犯人ノ身位財産ニ應シテ自ラ輕重ヲ生スルハ自然ノ

理勢ナリ看ヨ一圓金ハ貧民ニ在テハ貴重ト爲セトモ富者ニ在テハ塵芥ト一般ノ看ヲ做スニ非スヤ原案ハ出庭セサレハ直ニ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フルヲ以テ一件全ク落着スレトモ修正案ノ如クシハ先ツ其出庭セサル事由ノ果シテ正當ナリヤ否ヤヲ勘査セサル可ラス即チ他行セリト云ヘハ偵者ヲ遣リテ之ヲ探リ疾病ナリト云ヘハ醫師ヲ派シテ之ヲ診セシメサル可ラス此ノ如クシハ正式ノ裁判ヲ爲スト同一ノ煩勞ヲ致サン故ニ官民ノ利便ヲ謀ル即決法ノ精神ニ據リテ原案ニ復センコトヲ望ム

○二十三番 渡邊清 賛成ス即決法ノ主眼ハ簡便ニ在リ十四年第四十四號布告ヲ廢止シ警察官ニ違警罪ノ處分ヲ委任スル以上ハ其責任ノ多キヲ加ヘ隨テ經費ノ額ヲ増シ巡查ノ俸給拘留所ノ建築等必ス地

方ノ負擔ヲ重クスルヲ恐ル實ニ修正案ハ原案ノ主旨ニ反ス原案ニ於テハ保證金ハ出庭シテ本刑ノ執行ヲ受ル爲メニ供呈スル保證金ナリ故ニ出庭セサレハ之ヲ沒入シテ本刑ニ換ヘ以テ其一件ノ速ニ辦理スルヲ得レトモ修正案ニ從ヘハ處事澁滯シテ爲メニ拘留所等ノ増築ヲ要スルニ至ラン三十三番モ云フ如ク正當ノ事由ヲ勘査スルハ極メテ難事ナリ本官ハ地方ノ負擔ヲ輕減スルヲ以テ素望ト爲ス者ナレハ法律上ノ體面ハ稍ヤ完全ナラサルモ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フル簡便ニ就カンコトヲ望ム且ヤ之ヲ沒入スルトキハ既ニ其保證金ノ性質ヲ變シテ本刑ト爲ルナリ保釋金ニ關スル治罪法第二百十四條等ハ此ト同一ノ文例ナレトモ其名義ヲ變シテ保證金ト曰ヒ以テ即決スルヲ主眼ト爲セル本案ナレハ必ス原案ニ復セサ

ル可ラス

○議長 三十三番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二番小畑美稻 本條ノ修正タル三十三番ノ云フ如ク原案ニ比スレハ處

事ノ煩雜ニ涉ルハ固ヨリ本官輩ノ知ル所ナリ知テ而シテ特ニ此修正ヲ加ヘシハ蓋シ一大理由ノ在ル有ルカ爲メナリ思フニ發議者ハ原案ニ科料ト拘留トヲ區別セシ所以ヲ知ル耶東京等ニ在テハ身分ヲ帶ヒ財産ヲ有スル者ノ旅亭ニ寄寓シ偶マ違警罪ヲ犯シテ保證金ヲ納メ本刑ノ執行ヲ受ルノ日ニ至テハ既ニ其郷里ニ歸リ去ル者多カラシ又日傭夫ノ如キ一圓ノ保證金ヲ沒收セラルルモ他ニ一日一圓五十錢ノ賃金ヲ得ル爲メニ出庭セサル者アラン此ノ如キハ罪人ヲシテ其刑ヲ左右セシムル者ト謂フ可シ故ニ科料ト拘留トヲ區別

スル以上ハ罪人ヲシテ其刑ヲ左右セシメサル爲メニ修正ヲ加ヘタルナリ

○六番柴原和

三十三番ハ原案ヲ誤解スル無キヲ得ンヤ此保證金ハ犯罪人皆之ヲ納ムルヲ得ルニ非ス即チ紳商豪農輩ハ之ヲ納メント欲スルモ得ル能ハス車夫馬丁ノ如キ住所分明ナラサルカ若クハ詐告ヲ爲スノ虞慮アル者ニ對シ之ヲ收ムルナリ且夫レ科料ハ金ヲ以テ罪ヲ贖フ者ナレトモ拘留ハ然ラス若シ之ニ反シ金ヲ以テ拘留ヲ贖フ者ト爲セハ法律ノ原則ニ悖ルナリ故ニ刑法ノ大本ヨリ改正スルニ非サレハ本條ノ原文ハ不權衡ヲ免レス若シ刑法ノ拘留ヲ廢シテ十圓以下ハ科料ト爲ス等ハ本官モ別題トシテ同意ス可キモ唐突ニ本案ニ於テ不權衡ノ條文ヲ掲クルハ怪マサルヲ得ス本案ハ出庭セ

サルモ必ス窮追徧搜スルニ非ス或ハ措テ間ハサルコト有ル可シ原案ノ如ク住所分明ナレハ實決ヲ受ケ不分明ナレハ本刑ヲ免カルル如キハ公平ヲ失ス其治罪法ノ成文ヲ引用セシハ洪水其他ノ天災地變ニ因テ事實出庭スル能ハサル者ヲ云フニ在リ要スルニ修正案ヲ煩雜ナリト云ヘハ先ツ治罪法ヲ改正セサル可ラス且已ニ第九條第十條ニ於テ科料ト拘留トヲ區別セル以上ハ必ス此修正ノ如クナルヲ要スルナリ

○五十七番井田讓

三十三番ヲ賛成ス本官ハ初ヨリ原案ヲ明備ナリト信認シ修正委員ヲ置ク建議ニモ同意ヲ表セサリシ本條ノ修正ノ如キハ近來ニ見ル無キ拙劣ナル者ニシテ頭ヲ見テ足ヲ見サル恰モ俗畫ノ幽靈ノ如キ者ナリ思フニ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フル以上

ハ既ニ科料ト拘留トノ區別ヲ論スルヲ要セス只今六番ノ辨スル所
ハ没入以後ノ處分ニ及ハス是レ即チ幽靈ト一般ニ非スヤ故ニ必ス
原案ニ復セサル可ラス

○十九番

箕作
麟祥

只今某議官ハ本修正案ハ近來ニ見ル無キ拙劣ナル者
ニシテ恰モ幽靈ノ如シト評論セリ巧拙優劣ノ如何ハ議場ノ公論ニ
任サンノミ且某議官ハ没入後ノ處分ヲ云ハサルヲ咎ムレトモ是レ
治罪法第二百十四條ヲ一讀セハ自ラ明白ナラン其成文ニ保釋中被
告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出庭セサル時ハ保證金ノ全部
又ハ幾分ヲ没入ス可シト言ヘリ此第二百十四條ハ精密ノ調査ヲ經
タル成法ナリ保釋金ヲ没入シタル後ニ本刑ヲ科スルハ論ヲ待タス
原案ノ如ク本刑ニ換フルナラハ其本刑ニ換フルコトヲ明掲ス可キ

モ本官輩ハ元來保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フルヲ不可ト爲スナリ
出庭ヲ約スル保證金ナレハ違約シテ出庭セサレハ其保證金ヲ没入
スルハ固ヨリ當然ノ措置ニシテ本刑ハ更ニ之ヲ科ス可キ者トス然
ルニ保證金ノ措置ニ繼クニ本刑ヲ科スルコトヲ以テセハ是レ既ニ
足アル者ニ又更ニ不要ノ足ヲ添フルナリ修正委員ノ本條ニ關スル
理由ハ二番六番ノ既ニ辨明セシ如ク科料ト拘留トノ區別即チ贖罪
金ト施體刑トノ區別ハ裁判官ノ之ヲ擬施スルニ任ス然レトモ既ニ
二様ノ區別ヲ立ル以上ハ其執行ニモ亦必ス區別ヲ立サル可ラス拘
留ノ言渡ヲ受クル者ニシテ出庭ヲ約スル保證金ヲ納メ而シテ其執
行ニ臨ミ出庭セサレハ始メテ保證金ヲ没入スルモ拘留ノ本刑ハ必
ス實行セサル可ラス今若シ違警罪ハ輕微ナル犯罪ナレハ皆之ヲ科

料ニ止ム可シト云ハハ先ツ刑法ヲ改正セサル可ラス然ラサレハ必
 ス修正ノ如クスルヲ要ス又某議官ハ修正案ニ據レハ拘留所新築ノ
 費用ヲ増シ困難ヲ地方人民ニ及ホスト論スレトモ本案ノ事實タル
 敢テ本案ヲ以テ創始スルニ非ス現行ノ事實ヲ法律ノ明文ニ掲記ス
 ルノミ是レ第一讀會ニ當リ内閣委員モ明言シタル所ナリ故ニ地方
 税ノ増加ヲ慮カルヲ要セス又保證金没入後ノ處分ハ當局者ノ意中
 ヲ以テ本刑ニ處スルト爲スモ人相書ヲ配付シテ捜査スル如キニハ
 至ラサル可シ或ハ期滿免除ニ付スルモ知ル可ラス是等ハ當局者ノ
 處分ニ委センノミ之ヲ要スルニ保證金ノ没入ヲ以テ本刑ニ換フル
 ハ法律ノ體面ニ適セス況ヤ犯人ヲシテ隨意ニ其刑ヲ左右セシムル
 ノ失當ヲ見ルヲヤ

○五十七番 井田 讓

本官ハ六番ノ言ニ因テ惑ヲ生シタリシニ更ニ十九
 番ノ辨明ヲ得タリ是ニ由テ之ヲ觀レハ修正委員ハ各其精神ヲ異ニ
 スルヲ推スニ足ル且此修正ノ如クハ許多ノ煩勞ヲ招キ本案ノ精
 神タル簡易ノ利便ヲ失セントス修正ノ主旨ハ罪人ノ隨意ニ其刑ヲ
 左右スルヲ嫌フニ在ル可キモ保證金ハ必要ナル場合ニ於テノミ之
 ヲ納ムル者ニシテ決シテ罪人ノ自ラ其刑ヲ左右スルヲ得ルニ非ス
 即決ノ主眼即チ本刑ニ換ヘテ保證金ヲ没入スルハ手數ヲ省クニ在
 リ故ニ科料ト拘留トノ區別ヲ立ルモ保證金ヲ以テ出庭ヲ約束セル
 ナレハ本刑ノ科料ト拘留トニハ異同ヲ存セサルナリ

○議長 時已ニ午ヲ過クルヲ以テ本日ハ閉會シ續會ハ二十三日ニ之
 ヲ開カン散會セヨ

| | | |
|------|-----|-----|
| 十四番 | 野村 | 素介 |
| 十七番 | 田中 | 芳男 |
| 十九番 | 箕作 | 麟祥 |
| 二十二番 | 中島 | 錫胤 |
| 二十三番 | 渡邊 | 清 |
| 二十四番 | 壬生 | 基修 |
| 二十五番 | 細川 | 潤次郎 |
| 二十六番 | 西 | 周 |
| 二十七番 | 鍋島 | 直彬 |
| 二十九番 | 神山 | 郡廉 |
| 三十一番 | 大久保 | 一翁 |

| | | |
|------|----|----|
| 三十二番 | 久我 | 通久 |
| 三十三番 | 神田 | 孝平 |
| 三十四番 | 河田 | 景與 |
| 三十六番 | 福原 | 實 |
| 三十七番 | 横村 | 正直 |
| 三十九番 | 津田 | 眞道 |
| 四十番 | 宮本 | 小一 |
| 四十三番 | 田邊 | 太一 |
| 四十四番 | 三浦 | 安 |
| 四十五番 | 大鳥 | 圭介 |
| 四十六番 | 町田 | 久成 |

午前第九時四十五分開場

- | | |
|---------|-------|
| 四十八番 | 岩村 定高 |
| 五十一番 | 林 友幸 |
| 五十二番 | 伊丹 重賢 |
| 五十三番 | 村田 保 |
| 五十五番 | 黒田 清綱 |
| 五十六番 | 何 禮之 |
| 五十七番 | 井田 讓 |
| 五十八番 | 長松 幹 |
| 内閣委員 | 鶴田 皓 |
| 参事院議官 | 敬斐 |
| 同 | |
| 参事院議官補長 | 森 |

○議長 第四百七十八號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク三十三番ノ發議ニ係ル第十一條原案回復説方サニ問題ニ在リ

○五十七番 井田讓 前會ニ於テ十九番ノ辨駁ニ對シ一言セリ本日更ニ其餘緒ヲ繼キ尙ホ少シク論スル有ントス十九番ハ治罪法第二百十四條ヲ引證シテ修正案ヲ維持セリ本官退テ其成文ヲ一讀セシニ實ニ本條ト同一ナレトモ其立案ノ精神ハ大ヒニ異ナリ治罪法第二百十四條ハ保釋ノ事ニ係リ即チ幕府時代ニ行ハレシ宿預ノ類ニシテ是等ハ罪狀未決ナル者ノ處分ノミ本條ノ犯者ト其性質ヲ異ニス保釋金ハ本ト出庭ヲ約束スル純粹ノ保證金ナレトモ本條ノ保證金ハ本刑ノ言渡ノ確定セシ罪狀既決ノ犯人ニ對スル者ニシテ其本刑ニ換フル點ヨリ之ヲ言ヘハ稍ヤ贖罪金ノ性質ヲ帶ヘリ彼此ノ差異實

ニ明瞭ナラスヤ刑法第二十七條ハ罰金一圓ヲ一日ニ折算シテ輕禁錮ニ換フル原則ヲ示セリ第八條以下原案ノ精神ハ此ニ依據スル者ニシテ十九番ノ引證ハ誤マレリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ本條ハ一圓ヲ以テ一日ノ拘留ヲ贖フ者ニシテ即チ刑法第二十七條ノ一圓ヲ一日ニ折算スル裡面ニ出ルナリ故ニ前各條ヲ承接シ本條ニ「保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ」ト言ヘル文字ノ必要ナルハ論ヲ竣タスシテ知ル可シ

○四十四番^{三浦安}

修正委員ノ最モ眼目ト爲セル修正ハ蓋シ此第十一條ニ在ルナラン然ルニ原案回復說ノ起ル有リテ五十七番ノ如キ本案ノ保證金ハ治罪法ノ保釋金ト其性質ヲ異ニスレハ之ヲ以テ例證ト爲ス可ラスト駁難セルモ本官ハ之ニ反シ其性質ハ異ナル無シト

信ス實ニ保釋金ハ罪狀未決ノ者ニ施ス可ク而シテ保證金ハ本刑ノ宣告後執行前ニ在ルハ論者ノ說ノ如キモ其出庭ヲ保證スル精神ニ至テハ毫釐ノ異ナルヲ見ス又五十七番ハ本刑ノ言渡ノ確定後ニ係レハ保證金ヲ以テ本刑ニ換ルハ即チ拘留ヲ贖フナリト言ヘリ是レ甚シキ謬見ニシテ殆ント贖罪金ト保證金トノ區別ヲ辨セサル者ト謂フ可シ若シ本條ニシテ最初ヨリ拘留ヲ科料ニ換ヘハ論者ノ言ハ聞クヲ得ルモ保證金ハ即チ其名ニ表スル如ク出庭ヲ保證スルニ外ナラス若シ果シテ論者ノ解釋ヲシテ真正ノ解釋ナラシメハ第十條ハ尙ホ修改セサル可ラス故ニ此ノ如キ議論ハ未タ以テ修正案ヲ打破スルニ足ラス本官輩ノ報告案ニ同意セシハ保證金ヲ以テ本刑ニ換フルノ失當ヲ惡ミテナリ保證金ノ目的ハ向キ屢辨明セシ如ク被

告人ヲシテ其没入ヲ恐レ出庭セシムルニ在リ然ルヲ原案ノ如ク出庭ニ應セサルトキハ没入シテ本刑ニ換フルト爲セハ一ノ名義ヲ二様ニ適用スルノミナラス被告人ヲシテ隨意ニ其刑ヲ擇マシムルノ嫌ヒ有リ是豈刑法ノ原則ニ適應スト謂フ可ケンヤ加旃彼ノ淳良ナル人民ハ出庭シテ本刑ヲ受ケ無賴ナル黠兒ハ出庭セスシテ本刑ヲ免ルルノ不公平ヲ來サン但シ若シ内閣ノ精神ハ違警罪ハ悉ク拘留ヲ科料ニ換フルト云フニ在ラハ一ノ別問題ニ屬スレトモ本條ノミヲ以テ刑法ノ原則ヲ破ルハ條理ノ容ササル所トス修正委員ノ治罪法第二百十四條ヲ移シ來リテ本條ヲ修正セシハ實ニ感服ニ堪ヘサルナリ又論者ハ刑法第二十七條ヲ引證スレトモ該條ハ罰金ヲ折算シテ輕禁錮ニ換フル者ニシテ本案第十三條ノ適例ニ係ルモ之ト表

裏ノ差違ヲ存スル罰金ヲ没入シテ本刑ニ換フル本條ノ例證ト爲ス可キニ非ス又論者ハ前會ニ本條ヲ評シテ幽靈ノ如シト云フモ是レ決シテ結局ナキニ非ス即チ被告人ノ出庭セサレハ其逮捕ニ就クニ及ヒ更ニ本刑ヲ科スルヤ明白ナリ但シ費用ノ省減ヲ謀ルヲ以テ彼ノ重輕罪犯ノ如ク百方搜索ヲ爲ササルモ保證金ハ没入セラレ本人ハ期滿免除ノ期ニ至ルマテ潛匿シ公然社會ニ立ツ能ハサレハ充分ノ陰罰ヲ蒙レルナリ然ラハ則チ幽靈ノ評語ハ決シテ當ラズ妄評ノ甚シキ者ノミ

出席

三十五番

籠手田安定

○三十三番 神田孝平

本官ノ發議ニ對スル委員諸君ノ辨駁ハ其主點種種ナレトモ今其大體ニ關シテ一辨セハ本官ノ旨意ヲ貫徹セシムルヲ

得シ委員諸君ノ論旨ハ率子治罪法第二百十四條ヲ引證シ本條亦之ニ據ラサル可ラス若シ原案ノ新例ヲ創メントナラハ先ツ治罪法ノ原則ヲ改正スルヲ要スト云フニ歸着セルカ如シ是レ本官ノ論旨ト相ヒ衝突スル所トス抑モ刑法治罪法ハ共ニ儼然タル一大成典ナリ之ニ反シ即決例ハ所謂ル畧式ノ假裁判法ニシテ素ヨリ彼ヲ以テ此ヲ推スハ甚々謬レリ故ニ本官ハ即決例ニ規定ス可キ手續ハ力メテ簡易ナルヲ望ム若シ然ラスシテ治罪法ト一般ナル手續ヲ規定セハ僅僅ナル一圓ノ科料ノ爲メニ被告人ハ其營業ヲ輟メ隨テ數圓ヲ費用スル不幸ヲ招ク有ラン是レ刑法治罪法ノ原則ヲ實行セント欲シテ却テ治安ノ主義ヲ害スル者ト謂フ可シ假ニ例ヘハ刑法治罪法ハ小笠原流ノ獻立ニシテ此即決例ハ即席料理ノ獻立ナリ故ニ務メテ

簡便ヲ謀ラサル可ラス四十四番ハ原案ハ狡黠ナル犯人ヲシテ隨意ニ其刑ヲ左右セシムルコトヲ痛駁セリ是レ實ニ輕罪以上ノ犯罪ニハ最モ厭惡ス可キナレトモ輕微ナル違警罪ノ如キハ然ク憂フルニ足ラス何トナレハ違警罪ハ深甚ナル惡意ニ生スルニ非ス又其犯人モ惡漢兇匪ヲ以テ目ス可ラス隨テ其社會ニ及ホス患害モ亦極メテ少小ナレハナリ然ラハ則チ本案ニ對シテハ宜ク理論上ノ思想ヲ棄テ以テ簡便ナル即席料理ヲ調成スルヲ緊要ナリトス是レ實ニ此略式法ノ本旨ナラスヤ前會屢違警罪犯ノ身分ヲ論スル有リシモ其身分ノ貴賤ニ因テ刑罰ヲ輕重ス可キニ非ス時ニ或ハ官吏ト雖モ違警罪ヲ犯スコト有リ此官吏若クハ商家ノ雇人等ノ拘留ニ處セラレ是カ爲メニ官衙ノ公務若クハ雇主ノ肆店ニ支障ヲ致ス有レハ第八

條ノ必要ト認ムル部分ニ入レテ保證金ヲ納メシムルモ可ナラン但シ是等ハ一ニ警察官ノ鑒定ニ委センノミ又違警罪ノ拘留ハ總テ科料ニ換フ可シトノ論ヲ聞ク實ニ日ニ月ニ進歩スル時世ノ現狀ヨリ之ヲ言ヘハ其時機ニ達スルハ遠キニ非サル可キモ今日ニ於テハ拘留ト科料トハ尙ホ兩ナカラ之ヲ存シテ應用セシムルヲ要シ即チ原案ノ如クスルヲ善シトス今若シ修正案ヲ以テスレハ被告人ノ逃走シテ出庭セサルトキハ其罪犯ハ久ク社會ニ存在シテ決スル能ハサラン是レ即決例ノ名實ニ反シテ其善良ノ旨趣ヲ害スルニ非スヤ

○外番一番編田 三十三番ノ回復說ハ實ニ善ク原案ノ精神ヲ看破シ本官ノ深ク満足スル所トス元來本案ハ簡便ヲ主トシテ制定セルナリ若シ法律ノ正面即チ治罪法ノ原則ニ據テ處分セハ外面ノ體裁ハ甚

タ善キモ警察署ハ其煩雜ニ困シミ頻數ナル違警罪犯ノ處分ノ結末ハ遂ニ見ル能ハサルニ至ラン本來罪名ニ重罪輕罪違警罪ノ三級ヲ設ケ治罪法ニ於ル處分ノ手續モ稍ヤ等差ヲ存ス然リ而シテ違警罪ハ最モ其性質ヲ異ニシ重輕罪ト日ヲ同ウシテ論ス可キニ非ス故ニ其處分モ警察署ニ委任シ以テ其効功ヲ見ルヲ得ルナリ且夫レ刑法ノ違警罪ニ關スル條文ヲ觀ルニ多クハ「幾日以上幾日以下ノ拘留ニ處シ又ハ何圓以上何圓以下ノ科料ニ處ス」ト掲記シ以テ應用ヲ自在ナラシム而シテ實際拘留ニ處スルハ千百中ノ二三ニ過キス是レ蓋シ違警罪ハ輕微ナル犯罪ナル故ナラン彼ノ輕罪犯中ノ過失殺傷ハ悉ク罰金ニ止メ其罰金ヲ納完スル能ハサレハ刑法第二十七條ニ依リ折算シテ禁錮ニ換フ是レ恰モ違警罪犯ト同一ナルニ似タルモ其

犯罪ノ性質ニ至テハ殆ント雲泥ナルヲ見ル畢竟此即決例ハ簡便ヲ
 主旨ト爲シ其第八條第九條第十條ノ如キハ新創ニ係ルモ其他ハ從
 來警察署ノ慣行セル手續ヲ蒐集スルノミ治罪法ノ正文ニ依レハ違
 警罪ノ刑罰ヲ宣告スル場合ニハ代人ノ出庭ヲ許スモ本案ハ必ス本
 人ノ出庭ヲ要ス是レ少シク苛酷ニ似タルモ本人ノ逃避シテ即決ノ
 實行ヲ缺クヲ恐ルルニ出ルナリ保證金ノ要用モ亦此ニ因テ生スル
 ヤ知ル可シ五十三番ハ保證金ハ保釋金ト同一ナリト云フモ決シテ
 然ラス保釋金ヲ納ムルハ豫審中ニ非サレハ許サス且其金額ハ豫審
 判事ノ意見ヲ以テ之ヲ定メ多キモ三四十圓ニ過ル無シ然ルニ本案
 ノ保證金ハ本刑言渡後ニ刑期ニ相當スル金額即チ五日ノ拘留ニハ
 五圓十日ノ拘留ニハ十圓ヲ納メシメ超加若クハ缺減ヲ許サス又治

罪法第二百十四條ハ論者ノ云フ如ク朱書ノ修正ト其成文ヲ同ウス
 レトモ眼ヲ轉シテ第二百五條ヲ一見セヨ保釋金ノ没入ハ豫審判
 事ノ言渡ヲ以テセサル可ラス然ルニ本案ニハ斯ノ如キ手續ノ周備
 セル有ラス無脚幽靈ノ修正ヲ以テ批評セラルルモ豈之ヲ咎ムルヲ
 得ンヤ且其保釋中ニ被告人ノ出庭セサルトキ果シテ正當ノ事由ニ
 出ルト否トハ罪件ノ豫審中ニ在ルヲ以テ之ヲ糺問スルニ便ナルモ
 本案ノ場合ニ在テハ其實情ヲ得ルニ難カラシ假令實情ヲ得ルト爲
 スモ即決例ニハ甚タ望マサル所ナリ内閣ノ立案ノ旨趣タル本案ノ
 保證金ハ素ト本人ノ出庭セサルトキ本刑ニ換フルニ在レハ其金額
 モ本刑タル拘留ノ日數ニ相當セシメリ修正論者ハ原案ヲ視テ犯人
 隨意ニ其刑ヲ左右スルヲ得ルノ弊害アリト論セリ是レ一理ナキニ

非サルモ極點ニ走レル推測説ト謂フ可シ司法省ノ上申案ハ初メ保證金ヲ没入シテ更ニ本刑ヲ科スルニ在リシモ其後更ニ拘留ハ總テ科料ニ換フル意見ヲ提出セリ然レトモ參事院ハ受刑ノ自擇ヲ許スノ不可ナルヲ駁シ遂ニ原案ノ如クスルニ至レリ前會以來各議官ノ往往ニ引證セル司法省ノ上申案ナル者ハ或ハ參事院ノ意見ト云フ可キヲ誤レルニハ非サル耶參事院ハ飽マテモ原案ヲ主張スルナリ然ルニ步ヲ進メテ違警罪ノ刑罰ハ拘留ト科料トヲ自擇セシムルヲ却テ可ナリト論スル有ルモ果シテ然センニハ刑法ノ原則ヲ壞破セサルヲ得ス是レ即決例中ニ規定ス可キノ事ニ非ス即チ單行布告ニ讓ラサル可ラス凡ソ事物ニ大小輕重ノ差別アレハ之レニ伴フ手續モ亦自ラ差異ナキ能ハス違警罪ハ輕微ナル罪犯ナレハ其刑罰ノ手

續モ亦隨テ簡易ナルヲ當然ナリトス是レ實ニ違警罪ノ違警罪タル所以ニシテ即決例ノ即決例タル所以ナラン理窟論ハ姑ク措キ其處分ヲ輕便ナラシメハ人民ハ寬大ノ處分ニ感シ政府ハ煩勞ヲ省クノ兩得ヲ見ルハ昭昭トシテ其レ明カナリ願クハ三十三番ノ動議ニ可決センコトヲ

○六番 柴原和

三十三番ハ本條ノ旨趣ヲ誤解セルカ如シ三十三番ノ第

八條ノ「必要」ナル文字ニ關シテ官吏雇人ノ例ヲ援キタルハ少シク當ラス且其拘留ニ處スル者多キニ居ルヲ説ケトモ番外一番ハ之ニ反シテ拘留ニ遭フ者ハ千百中ノ二三ナリト云ヘリ本官ハ番外ノ言ヲ信セサルヲ得ス三十三番ノ論旨ヲ敷衍セハ保證金ヲ以テ本刑ニ換フルノ必要ナルハ啻ニ官吏商賈ノミニ止マラス車夫馬丁等ノ一

日モ其業ヲ輟ムル能ハサル者ニモ適施セサル可ラス即決法ノ手續ハカメテ簡易ナラシム可キハ論ヲ竣タサレドモ刑法治罪法ノ原則ハ漫ニ壞破ス可キニ非ス番外ハ本案ヲ以テ刑法治罪法ノ原則ノ外ニ置クト主張スレトモ若シ科料ノ比例ヲ三錢以上八十錢以下ト爲セハ番外ハ必ス原則ニ背反スルヲ難セン是レ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フルノ不當ナルト何ソ擇ハン三十三番ハ官吏商賈ノ職務營業ニ支障スル場合ヲ以テ第八條ノ「必要」ナル文字ヲ解釋スレトモ是レ大ナル謬見ニシテ此必要トハ番外ノ説明セシ如ク被告人ノ逃亡スル等ノ虞慮アル場合ヲ指スニ在リ又番外ハ正當ノ事由トハ如何ナル事由ナルカ其定解ニ苦シムト難スレトモ是レ洪水ノ橋梁ヲ隳リテ道路爲メニ阻タリ遂ニ出庭スルヲ得サル等ヲ云フ決シテ定

解ニ苦シム可キニ非ス凡ソ必要ト認メテ保證金ヲ供出セシムルハ畢竟其逃匿ヲ懼ルルニ在リテ此條ヲ施行スルハ多クハ住所不定ノ無賴者ナリ東京府下ニ住所ヲ占ムル良民輩ニ施行ス可キニ非ス刑法ノ原則罰例ノ大體ハ固ヨリ變更スル能ハサレハ科料モ八錢以上八十錢以下ト爲ス可キニ非ス之ト同ク保證金モ亦之ヲ没入シテ以テ本刑ニ換フ可キニ非サルナリ然ルヲ若シ原案ニ從ヘハ正直ナル良民ハ實決ヲ受ケ狡黠ナル無賴者ハ之ヲ免ルノ不公平ヲ生セン然ラハ則チ原案ノ如キハ即決例中ニ存立セシム可ラサル條文ナリ但シ報告案ニシテ若シ文字ノ穩妥ヲ缺ク有ルヤ更ニ好修正ヲ得ルハ素ヨリ企望スル所ナレトモ本刑ニ換フル一事ニ至テハ飽マテモ反對議ヲ持セサルヲ得ス番外一番ハ治罪法第二百十五條ハ豫審判事

ノ言渡ヲ以テ保證金ヲ没入スレトモ本修正案ニハ此手續ヲ示ス無キヲ以テ所謂無脚幽靈ノ修正ナリト難セリ其レ然リ然レトモ本案ハ即決例ニシテ豫審判事ヲ要スルノ謂レ無ケレハ其治罪法ト異ナルハ當然ナリ五十七番ハ保證金ノ保釋金ト性質ヲ異ニスルヲ論シ四十四番ハ性質ヲ同ウスト辨セリ思フニ二者ノ精神ハ稍ヤ異ナル無キニ非ス何トナレハ保釋金ノ供出ハ本人ノ請求ニ由リ保證金ノ供出ハ警察官ノ命令ニ由レハナリ然レトモ其未決ノ點ニ於テハ彼此毫モ異ナル有ラス蓋シ即決ノ裁判ハ本ト假式ノ裁判ニシテ其言渡後ノ五日內ニ正式ノ裁判ヲ請求スルモ知ル可ラサレハ之ヲ未決ト云フモ可ナリ無脚幽靈ト相似タリトノ評語ハ頻頻議場ニ聞ク所ナレトモ警察官其脚ヲ添フルナレハ敢テ憂フルニ足ラス反對論者

ナル各位ニシテ刑法ノ原則ヲ破リ且實際ニ弊害ヲ生スルヲ領會セハ本案ノ修正ヲ成立セシムルノ必要ナルヲ覺トル有ル可シ

○二十五番 細川潤次郎

本官モ報告案ヲ是認ス手續ノ繁簡ヨリ是非ヲ論セハ殆ント向背ニ惑フモ要スルニ保證金ノ以テ出庭ヲ保證スル者ナルハ保釋金ト異ナル無レハ或ハ之ヲ還付シ又事由ニ應シ之ヲ没入スルモ可ナリ然レトモ其没入ヲ以テ本刑ニ換ルニ至テハ徹頭徹尾感服スル能ハス刑法ノ換刑例ハ即チ刑ヲ以テ刑ニ換ルナレハ敢テ不可ナル無キモ約束上ニ出ル保證金ヲ以テ施體刑ニ換ルハ名實相異ナル者ヲ相換ルナレハ其失當ナル論ヲ俟タス本官ハ朱書修正ノ一部ニ關シ別ニ他ノ思想ヲ懷ケルヲ以テ言論少シク長キニ亘ルモ起立ノ次ニ之ヲ陳辨セン抑モ即決例ハ即座ノ裁判法ナレハ條文

モ短簡ナルヲ要ス已ニ短簡ナルヲ要ストセハ原案ノ如キ條數ヲ要
セス本官ハ單ニ第七條マテニシテ足レリト信ス請フ其理由ヲ述ヘ
ン本案ハ素ト獨逸法ニ模倣セル者ニシテ獨逸法ハ全編十二條ヲ以
テ終結ス其第一條ハ警察官ハ違警罪ノ假處分ヲ爲ス權ヲ有スルヲ
示シ第二條ハ刑名言渡書ニ記載スル條件ヲ舉ケ第三條ハ刑名言渡
書ヲ被告人ニ送達スル順叙ヲ掲ケ第四條ハ刑名言渡書ヲ送達スル
ニ手數料ヲ徵セサルヲ言フ此第三條第四條ハ本案中ニ其明文ヲ見
ス第五條ハ假處分ノ言渡ニ對シ控訴ヲ許ササルヲ示シ第六條ハ正
式ノ裁判ヲ經ハ假處分ハ無効ニ屬スルヲ言ヒ第七條ハ本案第七條
ト稍ヤ同ウシテ假處分言渡ノ確定スル期日ヲ記セリ第八條ハ警察
署長ノ假處分ノ確定セシ以後其犯罪ノ重輕罪ニ係リ若クハ權限ヲ

侵セシコトヲ發見スルモ他ノ刑罰ニ處セサルヲ掲ケリ是亦本案ノ
採用セサル所ナリ第九條ハ期滿免除ヲ定メ第十條ハ武官軍人ニ關
スル違警罪ヲ言ヒ第十一條ハ行政處分法ノ設ケ有ル者ハ假處分ヲ
用ヒサルヲ示シ第十二條ハ司法內務兩卿ニ於テ細則ヲ定ムルコト
ヲ掲ケリ又獨逸帝國治罪法中違警罪處分ニ關スル者ハ僅ニ第四百
五十三條乃至第四百五十八條ノ六條ニ止マル而シテ此兩法中未タ
本案第八條以下ニ規定セル如キ條項ノ存スルヲ見ス獨逸國ニ於テ
モ違警罪裁判ニ關スル法律ハ斯ノ如ク短簡ナルヲ以テ之ヲ觀レハ
本案モ第一條乃至第七條ヲ以テシテ足ル可ク第八條以下ハ蓋シ其
要用ヲ見ル無ラシ何トナレハ科料ヲ納完スル能ハサル者ハ刑法ノ
正條ニ照シテ拘留ニ換フ可ク其他モ亦第七條以內ニ於テ充分ニ實

功ヲ奏スルヲ得ヘケレハナリ思フニ内閣ノ第八條以下ヲ設ケタル旨趣ハ犯人ノ逃匿ヲ防クニ出テタルヤ知ル可ク然リ而シテ其憂慮ヲ要セサル所以ハ前陳ニ因テ分明ナラン但シ此說ノ議場ニ行ハレサルハ本官ノ自ラ信スル所ナリ又他ノ一說ヲ陳シニ第九條ノ主旨ヲ貫キ第十條ノ保證金ヲ削リ單ニ「拘留」ノ言渡ヲ爲シタル時ハ第五條ニ定メタル期限内「云云」ト爲シ而シテ第十一條ヲ全削セハ處分ハ悉ク留置ト爲リ保證金ノ混雜ヲ避ケ法律ノ明文殊ニ粲然タルヲ得ン以上ノ兩說ハ共ニ試ミニ之ヲ提出セント欲スルモ時機已ニ晚キヲ以テ今姑ク報告案ニ左袒ス

○五十三番村田保 番外一番ノ駁論及ヒ他ノ反對說ニ對シ一辨セン番外一番ハ重罪輕罪違警罪ト併稱スルモ違警罪ハ格段ニ其性質ヲ異

ニスル如ク說ケリ然レトモ是レ決シテ其性質ヲ異ニセス假ニ之ヲ異ニスト爲スモ被告人ヲシテ隨意ニ刑ヲ擇ハシメテ可ナランヤ又番外一番ハ刑法中ニ違警罪ヲ除クノ外ハ禁錮罰金ヲ并科セス即チ違警罪ノ如ク幾日ノ禁錮又ハ何圓ノ罰金ト併掲スル無シト明言スレトモ亦是レ甚タ誤レリ眼ヲ刮シテ刑法第二百四十六條第三百八十五條第四百十八條第四百十九條第四百二十一條ノ諸條ヲ觀ヨ禁錮罰金ヲ并科セルニ非スヤ其他新聞紙條例出版條例ノ罰則ノ如キ皆然ラサル無シ此ノ如キ誤謬ノ理由ヲ以テシテハ報告案ヲ論破スルニ足ラサルナリ又保釋金ト保證金トノ區別ニ關シ五十七番ノ駁論出タルニ番外一番ハ直ニ其尾ヲ逐ヒ保釋ハ豫審中ニ限り保證金ハ言渡後ニ在リト云ヘリ是レ一ヲ知テ二ヲ知ラサル辨論ト謂フ可

シ保釋ト雖モ刑名宣告ノ後チ控訴上告ノ間ニ於テハ之ヲ許セリ本案ノ場合モ正式裁判請求ノ期限前ニ在テハ保釋ノ場合ト毫モ異ナル無シ即チ刑法第五十一條第三項ヲ一讀セハ此說ノ明確ナルヲ悟ラン又本問題ノ發議者即チ三十三番ハ朱書ノ修正ヲ駁撃セルモ其言ハ却テ之ヲ贊成セルニ似タリ只其異點ハ保證金ヲ以テ本刑ニ換ルニ非サレハ即決例ノ効用ヲ見スト云フニ在リ是レ蓋シ誤見ナラシ抑モ即決例ノ眼目ハ第七條以上ヲ以テ具足セリ是レ治罪法ノ順叙ニ從ハス簡單ナル手續ヲ應用スル主意ノ存スル所タリ畢竟本案第八條以下ハ罪人ノ逃匿ヲ防クニ在テ五日以内ニ出庭シテ實決ヲ待ツ可キ者ニ非サレハ保證金ノ特例ヲ設ケテ之ヲ提轄スルノミ元來刑法違警罪ノ刑罰ニシテ第四百二十九條ヲ除クノ外ハ裁判官ノ

意見ニ隨セテ科料ナリ拘留ナリ其孰レヲ言渡スモ可ナレハ若シ金ヲ以テ刑ニ換フルノ主旨ナラハ科料ノ刑ノミヲ存シテ可ナリ何ソ拘留ノ言渡ヲ爲スヲ須ヒン然ルニ裁判官ノ拘留ヲ言渡スハ體刑ヲ加フルノ必要ナレハナリ若シ果シテ體刑ヲ加フルヲ必要ト爲セハ拘留ハ必ス實決セサル可ラス是レ金ヲ以テ刑ニ換フルノ失當ナル所以ナリ本邦ノ昔時ノ刑罰ハ總テ施體ニ止マリ金圓ヲ以テスルコト無シ是レ當時懲戒ハ體刑ニ非サレハ其効ヲ見スト思惟セシ故ナラン已ニ本案ノ模型タル獨逸ノ原法スラ本案ノ如キ成例ヲ存セス然ラハ則チ本案ニシテ何ソ刑法ノ原則ヲ壞破スルヲ得シ近來法律ノ進歩セルヨリ刑罰ヲ科スルニ貴賤貧富ノ差別ヲ問ハス一ニ公平ヲ主トシ彼ノ閏刑又ハ勅奏任官ヲ特待スルノ例ハ刑法治罪法ニ於

テ一切ニ廢棄セルニ至レリ然ルニ原案ニ據レハ良民ハ刑ヲ受ケ黜
 兒ハ苟モ免ルノ不公平ヲ致シ公均ノ旨趣ニ乖戾スル甚々大ナリ内
 閣委員ハ向キニ修正委員席ニ參會シテ報告案ニ同意セシニ忽チ議
 場ニ反對說ヲ出スハ甚々疑フ可シ是蓋シ内閣委員ノ特權ニ依ル者
 ナラン却說ク二十五番ノ第二說ハ本官ノ意ヲ得タル者ナレハ若シ
 修正報告案ニシテ不幸ニモ消滅シ更ニ其修正說ノ出ル有ラハ即チ
 賛成ヲ表セントスルナリ

○番一外番皓鶴田

五十三番ハ本官カ修正委員席ニ於テ報告案ニ同意セ
 リト明言スルモ本官ハ未タ曾テ同意セル有ラス委員各位ノ招呼ニ
 應シテ會同シ參考ノ爲メニ意見ヲ陳述セシノミ内閣委員ハ素ヨリ
 修正ヲ左右スル資格ヲ有セス只其職分トシテ原案ヲ維持スルニ力

ムルナリ起立ノ次ヲ以テ五十三番ノ反擊ニ對シ一言ヲ呈セン刑法
 ノ正條ニ於テ禁錮又ハ罰金ノ其一ニ依ルハ多クハ過失罪ニ近キ者
 ニ用ヒタリ是レ本官等刑法編纂委員タリシ日ニ頗ル討究セル所ナ
 リ蓋シ過失ニ類似スル犯罪ニハ事實愍諒ス可キ者往往ニ之レ有ル
 ニ由ル又保釋金ト保證金トノ區別ハ向キニ陳述セル如ク未決ト已
 決トノ區別ニ存シ而シテ保證金ハ刑期日數ニ相當スルヲ肝要ト爲
 セリ保釋ハ控訴上告ノ場合ニ於テモ之ヲ許スハ論者ノ言フ如クナ
 ルモ此場合ハ尙ホ本刑ノ確定前ニ在テ即チ再ヒ審判ニ着手スル時
 際是レナリ故ニ豫審中ニ保釋金ヲ没入スルハ治罪法第二百十五條
 ニ依リテ没入ノ言渡ヲ爲ササル可ラス要スルニ保釋ハ其審判ニ數
 多ノ時日ヲ要スルヲ以テ之ヲ許ス者ニシテ彼ノ輕罪ノ速ニ判決ス

ルヲ得ル如キハ敢テ保釋ヲ須ヒス五十三番ハ自己ニ便スル處ニ向テ論辨シ其不利ナル者ハ省キテ言ハス是レ俗諺ノ自分勝手ト言フ者ナリ試ミニ報告案ニ云ヘル正當ノ事由ナクシテ出庭スル場合ノ手續ヲ問ハン其場合ニハ警察官ハ自ラ缺席裁判ヲ言渡シ以テ之ヲ揭示スル耶又違警罪裁判所ニ請フテ其言渡ヲ爲サシムル耶將タ所謂ル勝手處分ヲ施ス耶此結末詳明ナラスンハ本條モ畫餅ニ屬セン之ニ反シ原案ヲ以テセハ此ノ如キ患ヒ無ク本人ノ逃亡セル場合ニハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換ヘハ其結末整然トシテ一ノ支障ヲタモ見サラントス元來本案ハ獨逸ノ即決例ニ模倣セルモ刑法治罪法ニ至テハ素ヨリ彼レト相同キニ非ス刑法ニ定ムル科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ニシテ拘留ハ一日以上十日以下ト爲ス而シテ各

其最上限ヲ比較スルニ十日ノ拘留ト一圓九十五錢ノ罰金ト相當ス然ルニ科料ヲ拘留ニ換ルニ至テハ一圓ヲ一日ニ折算セサルヲ得ス本案第十條ノ折算法ノ如キハ刑法ト全ク相反シ一日ヲ一圓ニ折算ス其相異ナルヤ明瞭ナリ況シテ是レ保證金ナルヲヤ此ノ如ク本案ハ素ト一種ノ變法ナレハ強テ刑法治罪法ノ原則ニ拘泥スルヲ要セス凡ソ百事皆能ク道理ニ合セシムト斷言スルヲ得ス時ト處トニ隨テ宜キヲ制スルヲ眞ノ良法ト稱ス可キノミ我邦今日ノ法制ハ率子歐洲ニ依倣セサル無ク而シテ其原法タル歐洲ノ法制ニシテ非理ナル者モ往往ニ之レ有リ彼ノ期滿免除ハ社會ノ其罪ヲ遺忘スルト本人深ク潛匿スルノ艱苦ニ遭ヒ自ラ陰罰ヲ蒙ルト其證據ノ年久シテ已ニ湮滅ニ歸スルトノ如キ種種ノ理由ニ出ルト雖モ此理由タル一

モ真正ノ道理ニ合スル者ニ非ス然レトモ實際ノ人情ニ徴スレハ眞
 ニ愍諒ス可クシテ俄ニ此法文ヲ削去スル能ハス例ヘハ刑ノ執行ヲ
 免レタル重罪犯ノ期滿免除ノ期限ハ刑法ニ於テ三十年ト規定ス犯
 者ニシテ此三十年ノ歲月ヲ經ルノ間窃カニ社會ノ一隅ニ潜伏スル
 モ尚ホ刑罰ヲ免レストセハ人情果シテ如何ソヤ恐クハ何人ト雖モ
 之ヲ刑スルニ忍ヒサラントス然ラハ輕微ナル違警罪犯ノ如キハ迅
 速ニ其處分ヲ畢リ本人ヲシテ永ク痛苦ヲ感セサラシムルヲ可トス
 本官ハ以爲ラク歐米諸邦ノ人ニシテ若シ本案ヲ見ル有ラハ蓋シ其
 良法ナルヲ稱讚セント

○三十九番 津田 眞道

動議ヲ賛成ス原案ハ善ク時勢人情ニ適シ法制ノ妙
 ヲ得タル者トス刑法治罪法ハ歐洲人ノ所謂ル法理ニ合スル者ナレ

トモ現ニ我カ現狀ニ適セサルナリ漢學者流カ天理人道ハ孔子孟程
 朱ヲ一貫シテ變セスト云ヘルハ大ナル誤惑ニシテ時世ノ變化スル
 ニ隨ヒ天理人道モ自ラ變化ス法律ノ如キモ國地ト時勢トニ應シテ
 常ニ變化スルハ疑フ可ラス見ヨ古物商條例ハ間マ刑法ノ原則ニ背
 馳セル有レトモ善ク實際ニ適合セルヲ以テ頓ニ盜賊ヲ減少シテ良
 民ノ幸福ヲ増セシニ非スヤ佛國ノ古法ハ其當時ニ適合セシナラン
 モ今日我カ民情ニ適合セス若シ「モンテスキュー」「ベンサム」ヲシテ
 今日我邦ニ存在セシメハ必ス欣欣原案ヲ賛成スルナラン法理ノ何
 如ハ姑ク措キ實際ノ宜キニ適フコソ眞ノ良法ト謂フ可キナリ本條
 ノ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換ルハ殊ニ簡便ニシテ敢テ其正當ノ事
 由アルヤ否ヤヲ審査スルヲ要セス畢竟原案ノ如クセハ煩雜ノ手數

ヲ省キ苛酷ノ處分ヲ避ケ圓滑ニ實効ヲ收ムルコトヲ得ントス

退席

二十五番

細川潤次郎

○六番 柴原和 番外一番ハ修正委員ニ對シテ第十條ノ結末ノ處分ハ如何スルヤト問難セリ然レトモ保證金ヲ以テ本刑ニ換ルハ一般ニ施行スルニ非スシテ第八條ニ所謂ル必要ト認ムル場合ニ於テノミ施行スル處分ナリ實ニ治罪法第二百十五條ニ於テハ保釋金ノ没入ハ豫審判事ノ言渡ヲ以テスレトモ彼ハ保釋金ニシテ此ハ保證金ナレハ其間自ラ差違ヲ存ス此答辨ハ姑ク措キ本官ハ番外ニ反問セン第九條ノ假納金ノ結末ハ之ヲ何如スルヤト其科料ヲ納完スルニ於テハ還付ス可キハ明瞭ナレトモ其明文ヲ掲ケス或ハ是レ即決法ノ本旨タル畧文ニ係ルト答フルナランモ彼レ畧文ナラハ第十一條モ亦

畧文ナリ然ルニ若シ第十一條ノ修正ヲ評シテ無脚ト云ハハ原案第九條モ亦無脚ト云ハンノミ自己ノ無脚ナルニ他人ノ無脚ヲ咎ムルハ耳ヲ掩フテ鈴ヲ盜ムノ類ナリ要スルニ本條ノ結局トハ即チ第八條ノ必要ト認ムル場合ノ處分是レナリ其處分ハ如何ト問ハハ第九條ト同一ナルノミ又番外一番ハ歐米諸國人ハ本案ヲ賞讚セント云ヘリ修正案ハ實ニ然ラン然レトモ若シ原案ヲ把リテ示サハ彼レ必ス失笑セントス又三十九番ハ時勢人情ヲ舉テ本案ヲ論難セルモ若シ刑法治罪法ニシテ果シテ然ラハ論者宜ク政府ニ建議シテ之ヲ廢スヘシ此兩法ニシテ實施スル間ハ必ス此兩法ノ原則ニ準據セサル可ラス他ノ文字論ノ如キハ復タ敢テ辨排スルヲ要セス

○五十二番 伊丹重賢

現動議ニ對シテ紛論百出シ殆ント底止スル所ヲ知

ラス是レ本條ハ本案ノ眼目ニシテ輕忽ニ看過ス可ラサルニ由ルナ
 ラン本官ハ原案ニ回復スルヲ望ム一人ナリ官民共ニ便利ナル此即
 決法ヲ制定スルニハカメテ規則ノ簡易ナルヲ要ス二十五番モ云ヘ
 ル如ク即決法ノ本旨ハ第七條ニ止マルモ其餘ノ手續ヲ示サンニハ
 第八條以下ノ各條ヲ置サル可ラス貴重ナル裁判權ヲ警察官ニ委任
 スルハ畢竟簡便ヲ謀ルニ外ナラス過日府下深川ニ於テ成田不動尊
 ノ啓諭ヲ執行セルニ當リ同地ニ於テ處分シタル違警罪犯ハ一日平
 均二百人ニ下ラスト聞ケリ此ノ如キ場合ニ在テ朱書修正ノ如キ鄭
 重ナル處分ヲ爲サハ許多ノ警察署ヲ設クルモ即決例ノ實行ハ到底
 望ム可ラサラン是レ熱ヲ去ラント欲シテ湯ヲ注クニ異ナラス但シ
 保證金ヲ没入スル場合ハ實際十中ノ一二ナランモ其法條ノ存スル

以上ハ其煩ヲ免レス願クハ動議ノ成立センコトヲ

○四十四番 三浦安

簡單ニ一言セン番外一番ハ第十一條ノ結局ノ處分
 ハ如何スルヤト難スレトモ此即決例ニ於テハ治罪法第二百十五條
 ニ規定セル如キ鄭重ナル手續ヲ用ヒス若シ本條ニ治罪法第二百十
 四條ニ依ル可キノ明文ヲ掲ケハ或ハ其第二百十五條ノ手續ヲ要ス
 ルヤヲ知ラサレトモ其然ラサル以上ハ番外ノ駁論ハ一モ當ラサル
 ナリ

○五十三番 村田保

番外一番ハ治罪法第二百十五條ノ保釋金没入ハ檢
 事ノ意見ヲ聽キ豫審判事ノ言渡ヲ以テスルヲ引證スレトモ是レ豫
 審中ノ事ニ係リ所謂ル自分勝手ノ援例ノミ若シ治罪法第三百六十
 四條第二項及ヒ第四百十五條等ヲ觀ハ自ラ其援例ノ誤マルヲ悟ラ

ン注意ノ爲メニ一言ス

○議長 討議已ニ盡キタリト認ムルヲ以テ決ヲ取シ三十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

○起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ三十三番ノ修正説ニ決ス

書記官 西山 眞平 朗讀

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ

又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

退席

五十七番

井田

讓

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ可ト決シ此ニ第二讀會ヲ畢ル

○外 一番 鶴田 皓 直チニ第三讀會ヲ開シコトヲ請求ス

○議長 内閣委員ノ請求セルモ本日ハ他ニ公事ノ已ム可ラサル者アレハ議ヲ此ニ止ム各位散會セヨ

午後零時十五分開場

元老院會議筆記明治十八年七月三十日

○第四百七十八號議案 違警罪即決例制定ノ儀 第三讀會

議長 東久世通禮

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 青山 貞 |
| 二番 | 小畑 美稻 |
| 五番 | 上杉 茂憲 |
| 十番 | 由利 公正 |
| 十二番 | 鍋島 幹 |
| 十四番 | 野村 素介 |
| 十五番 | 伊集院兼寛 |

十九番 箕作麟祥

二十二番 中島 錫胤

二十三番 渡邊 清

二十四番 壬生 基修

二十六番 西 周

二十七番 鍋島 直彬

二十九番 神山 郡廉

三十一番 大久保一翁

三十二番 久我 通久

三十三番 神田 孝平

三十四番 河田 景與

三十五番 籠手田安定

三十六番 福原 實

三十七番 榎村 正直

三十八番 海江田信義

三十九番 津田 真道

四十番 宮本 小一

四十二番 楫取 素彦

四十三番 田邊 太一

四十四番 三浦 安

四十五番 大鳥 圭介

四十六番 町田 久成

元享元年會編卷五十八

○卷四百十八

出淵

三十一番

三十二番

三十三番

三十四番

三十五番

三十六番

三十七番

三十八番

三十九番

四十番

四十二番

四十三番

四十四番

四十五番

四十六番

午前第九時二十分開場

- | | |
|---------|-------|
| 四十七番 | 安藤 則命 |
| 五十一番 | 林 友幸 |
| 五十二番 | 伊丹 重賢 |
| 五十三番 | 村田 保 |
| 五十五番 | 黒田 清綱 |
| 五十六番 | 何 禮之 |
| 五十七番 | 井田 讓 |
| 五十八番 | 長松 幹 |
| 内閣委員 | 鶴田 皓 |
| 参事院議官 | 同 |
| 参事院議官補長 | 森 敬斐 |

○議長 第四百七十八號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 西山 眞平 朗讀

布告案

明治十四年^{九月}第四拾四號布告及^{十二月}同年^{十二月}第八拾號布告ヲ廢止シ
違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

○十九番 箕作 麟祥 本官ハ布告文ニ修正ヲ加ヘントス本案ハ前會ニ於テ

數條ノ修正ヲ要スル有リトシ爲メニ修正委員ヲ選定シ之ニ付託ス
可キニ決セリ當時本官ハ僅ニ一二ノ條項ヲ除クノ外ハ別ニ修改ヲ
要スル意思ナカリシモ衆議此ニ決シ隨テ本官モ員ニ修正委員ニ充
ルヲ以テ各位ト共ニ委員會ニ列シ内閣委員ト商議シ遂ニ本修正案

ヲ報告スルニ至レリ其大旨ハ固ヨリ各位ノ議ノ已ニ歸スル所ニシテ意ノ的ニ向フ所ナリト認メリ第二讀會ノ初メ議長ハ原案ト修正案ト孰レヲ以テ本案ト爲スコキヤヲ議場ニ問ハレシニ修正案ヲ以テスルニ決シ且其修正委員ヲ選定スル時ノ起立ニモ修正案ヲ以テ議題ト爲スニ決スル際ノ起立ニモ頗ル多數ノ同意ヲ得タルナレハ其修正ノ旨趣宜ク多ク採取セラルヘキニ何ソ圖ラン修正案中ニ於テ殊ニ重要ナル意見ヲ具シタル第三條第十一條ノ如キ一タヒ原案回復ノ動議ノ出ルヤ衆議乍チ之ニ左袒シ終ニ全ク原案ニ復スルニ至ントハ蓋シ是等ノ修正ハ大ニ原案ト意旨ヲ異ニシ甚タ要領ヲ得タル者ト信セシニ輒スク除銷セラレタリ是ヲ以テ之ヲ考フレハ初メ何ノ故ニ修正委員ヲ選定シ又何ノ故ニ修正案ヲ本案ト爲スニ決

セシヤ其然ル所以ヲ知ルニ苦ム然リト雖トモ是レ衆議ノ決定スル所ニシテ復タ奈何トモスル能ハス寧ロ本會ニ於テ前議ヲ主張シ第十一條ノ如キ必ス修正案ノ成立ヲ望ムニ如サレトモ退テ議場ノ景況ヲ察スルニ今日ニ於ルモ未タ其時機ニ會セス假令強辨以テ志望ヲ遂ントスルモ斯ル炎熱ヲ冒シテ自ラ勞シ且徒ラニ各位ヲ困メ結局何ノ得ル所モ無キニ歸セントス是ノ如キハ本官ノ敢テ望ム所ニ非ス然ラハ如何シテ可ナラン唯其志望ヲ斷チ其意見ヲ陳サル一途アルノミ然ラハ即チ此ノ如クニシテ已マンカ亦是レ其可ナルヲ知ラス今ヤ現存スル修正文字ハ第九條ノ「滿サル者」ヲ滿タサル者ト爲シ第十條ノ「五日以内」ノ以ノ字ヲ削レル如キ瑣瑣タル者ニ過キス此ノ如キ修正ヲ本院議場ニ於テ堂堂五十餘名ノ議官ノ議定セシ所

ナリト爲スハ少シク体面ニ關スル無キヲ得ンヤ故ニ本官ハ全ク朱書ノ修正文字ヲ削リテ悉ク墨書ノ原案ニ復シ更ニ一點ノ朱痕ヲ留メサルヲ欲ス因テ此布告案ノ「即決法」ト修正セシモ仍ホ即決例ノ文字ニ復セン若シ其孰レヲ優ルト云ハ法ノ字ヲ當レリト爲スモ個ハ是レ第十一條ノ如キ大修正ヲ加フル意望アリシニ由ル既ニ第十一條ヲ原案ニ復セリ何ソ獨リ布告案ノミ此ノ如クスルヲ要セン布告案ニシテ原案ニ復セハ各條モ隨テ同一ニ出テシメントス敢テ各位ノ賛成ヲ望ム

○十二番 鍋島 幹 賛成ス然ルモ本官ノ意見ハ差ヤ發議者ノ意見ニ異ナリ發議者ハ第十一條等ノ修正ノ成立セサルヲ以テ區々タル修正ノミヲ存留スルヲ欲セス原案ニ復スル動議ヲ提出セシモ本官ハ素ヨ

リ原案ノ如ク「即決例」ト名署スルヲ可トス前會ニ之ヲ法ト改メシハ本官ノ與セサル所ナリ例ヲ改メテ法ト爲スモ何ノ效用ヲ見ル有ラン

○二十四番 壬生 基修 本官モ原案ヲ可トス既ニ發言セント欲セシニ十九番ノ動議ヲ提出セルニ會ヒ喜テ之ヲ賛成ス

○四十四番 三浦 安 賛成ス其意見ハ發議者ト稍ヤ異ナルモ「法」ノ字ヲ以テ例ノ字ニ換ユルハ其歸ヲ一ニス是レ既ニ前會ニ論スル所ナリキ然ルニ發議者ノ言ニ前會ノ修正委員ヲ置ク時ニ於ルモ修正案ヲ議題ニ擇フ時ニ於ルモ頗ル多數ノ同意ヲ得テ決定セシニ逐條之ヲ議スルニ及ヒ却テ修正ノ成立セサリシヲ疑訝シ且ツ之ヲ歎惜セルモ本官ヲ以テ之ヲ觀レハ是寔ニ其故アリ敢テ怪ムニ足ラス前キニ本

官ハ修正委員ヲ置ク議ニハ起立ヲ表セサリシモ議題ヲ定ムルニ當
 テハ乃チ起立シテ修正案ヲ取ルニ同意セリ其意他ナシ第十一條ノ
 修正ヲ可認スルヲ以テナリ然リト雖トモ第三條ノ修正ノ如キハ寧
 ロ原案ヲ可認セリ是ニ繇テ之ヲ推セハ蓋シ各位中ニハ本官ト意見
 ヲ異ニシ或ハ第三條ノ修正ヲ可認シ或ハ第十一條ノ修正ヲ否認シ
 或ハ布告案ノ修正ヲ可認スル等種種ノ原因アツテ然ルナラン況ヤ
 議場ニ於テ甲乙ノ説ヲ聞キ別ニ發明スル有リテ意見ヲ改換スル無
 キニ非サルヲヤ變化窮リ無キハ議場ノ常態ニシテ毫モ疑訝スルヲ
 須ヒス且ツ發議者ハ本案中ノ意義ニ關セサル文字上ノ修正ヲモ原
 案ニ復センコトヲ要セリ是レ兩者ノ孰レニ決スルモ得失ナキヲ以
 テノ故ナラン然ラハ初ヨリ修正ヲ加ヘサルノ優ルニ如カサルナリ

○五十五番 黒田 清綱 賛成

○五十七番 井田 讓 賛成ス本官モ發議シテ原案ニ復セシメント欲ス蓋
 シ「法」ノ字ヲ用フルハ例ノ字ヲ用フルノ穩安ナルニ如カス

○議長 十九番ノ動議ヲ問題ト爲ス

出席 六番 柴原 和

同 二十五番 細川潤次郎

同 五十四番 西村 貞陽

○五十二番 伊丹 重賢 本官ハ前會以來修正案ノ全体ニ對シテハ之ヲ是認
 セサリシモ獨リ此布告案ノ「例」ノ字ヲ法ト改修セシニハ甚々同意
 セシナリ夫レ白璧ニシテ瑕玼アラハ宜ク更ニ研磨ヲ加ヘテ其美ヲ
 發揚セシムヘシ本案モ亦然リ假令原案ヲ白璧ト視ルモ微瑕アリト

セハ必ス修改ス可キノミ已ニ例ノ字ヨリハ法ノ字ノ可ナルヲ認ム
 宜ク其可ナルニ從ヒ原案ヲシテ益ス完全ノ法律タラシムヘキナリ
 ○二十三番 渡邊清 本官モ五十二番ト同ク法ノ字ヲ用ユルヲ是認ス抑
 ○モ例ノ字ハ偶マ刑法ニ之ヲ用ヒタルモ他ノ法律規則ニハ絶テ見サ
 ル所トス其刑法ニ於ルモ本案ト用所ヲ異ニシ法例刑例加減例ト言
 ヘル如ク後條ニ對比ス可キ者ニ之ヲ用ユ本案ノ如ク別ニ一法ヲ立
 ル者ハ名署シテ法ト爲スハ尤モ其宜キ所ナラン

○六番 柴原和 本官ハ修正委員ノ一人ニシテ素ヨリ修正案ノ如ク即決
 法ト爲スヲ要ス從前ノ成法ニ照スモ曾テ例ト署セシ者ヲ見ス若シ
 發議者ニシテ法ト爲スノ不是ナルヲ知り例ト爲サント云ハハ或ハ
 聞ク可キモ已ニ其可ナルヲ信スルモ徒ラニ原案ニ小修正ヲ加フル

ヲ屑トセストシテ例ノ字ニセント云フハ毫モ其可ナルヲ知ラス且
 ツ前キニ教育令ヲ議スルヤ頻リニ立稿ノ整備ヲ嘉ミシ痛ク原案ニ
 修正ヲ加フルヲ厭ヒシヨリ一種ノ風習ヲ成シ動モスレハ其轍ヲ踏
 ントス是レ本官ノ最モ憂フル所タリ夫レ議官ノ職ニ處ル一字一句
 タモ不是ナル有ルヲ認メハ改修ニ力ヲ致シ敢テ假借スル莫ル可シ
 況ヤ第十一條ノ修正ノ如キ其趣意大ニ原案ト異ナル有リテ必ス成
 立セシメサル可ラサルヲヤ因テ聊カ問題說ノ不是ナルヲ辨シ併セ
 テ各位中ニ於テ修正案回復說ヲ提出スル有ラハ喜テ之ヲ贊成セン
 トスル意思ヲ陳ス

○外 鶴田皓 問題說ハ恰モ法ノ字ヲ例ノ字ニ復スル動議ニシテ甚
 タ本官等ノ意ヲ得タル者トス蓋シ前會ニ於テ早ク法ノ字ヲ例ノ字

ニ改ム可カリシニ其説ノ行レサリシハ議論上ニ於テ動モスレハ從前ノ法律規則ヲ名ケテ單ニ例ト言ヘル無シト云フニ由ルカ如シ因テ聊カ其然ヲサル理由ヲ辨セン此即決例ハ治罪法ニ對シ設クル者ニシテ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ猶是レ治罪法中ノ一例ニシテ正式ニ對スル畧式正例ニ對スル變例ナリ然ルヲ若シ法ト署セハ或ハ治罪法ト對峙スル看ヲ呈セン且之ヲ法ト爲セハ名實重キニ過クルニ似タリ支那文字ノ用法ニ於ルモ常ニ例ハ法ニ附屬ス譬ヘハ法ハ根幹ニシテ例ハ枝葉ナリ故ニ呼テ例ト爲セハ法ニ對シテ權衡上幾分ノ輕キヲ存ス況ヤ事實ニ於テ治罪法ヨリ分派シ以テ即決ノ一例ヲ設クルナレハ終始共ニ其部内ヲ出テサルヲ宜ク之ヲ例ト署シ以テ獨立ノ法典ニ非サル實ヲ示スヘシ豈敢テ從前成例ナシト云フヲ以

テ其輕重大小ノ分ヲ愆ル可ケンヤ畢竟此理由アルヲ以テ司法省參事院共ニ異議ヲ生スル無リシナリ某議官ハ原案ニ些少ノ朱字ヲ加フルヲ要セサルヲ以テ例ニ復セント云フモ是レ恐クハ未タ深ク例ノ字ノ適當ナルヲ信セサルノ致ス所ナラン各位幸ニ熟考ヲ加ヘ問題説ニ決センコトヲ望ム

○議長 十九番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者二十二人

○議長 多數ナルヲ以テ十九番ノ修正説ニ決ス

書記官 西山 朗讀

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ

於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 西山 眞平 朗讀

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取

調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル

時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求

スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ

得ス

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ

場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ

期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載ス

ヘシ

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ

即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

○十九番 眞作 麟祥 布告案ニ對シ修正說ヲ提唱シタル際ニ豫陳セシ如ク